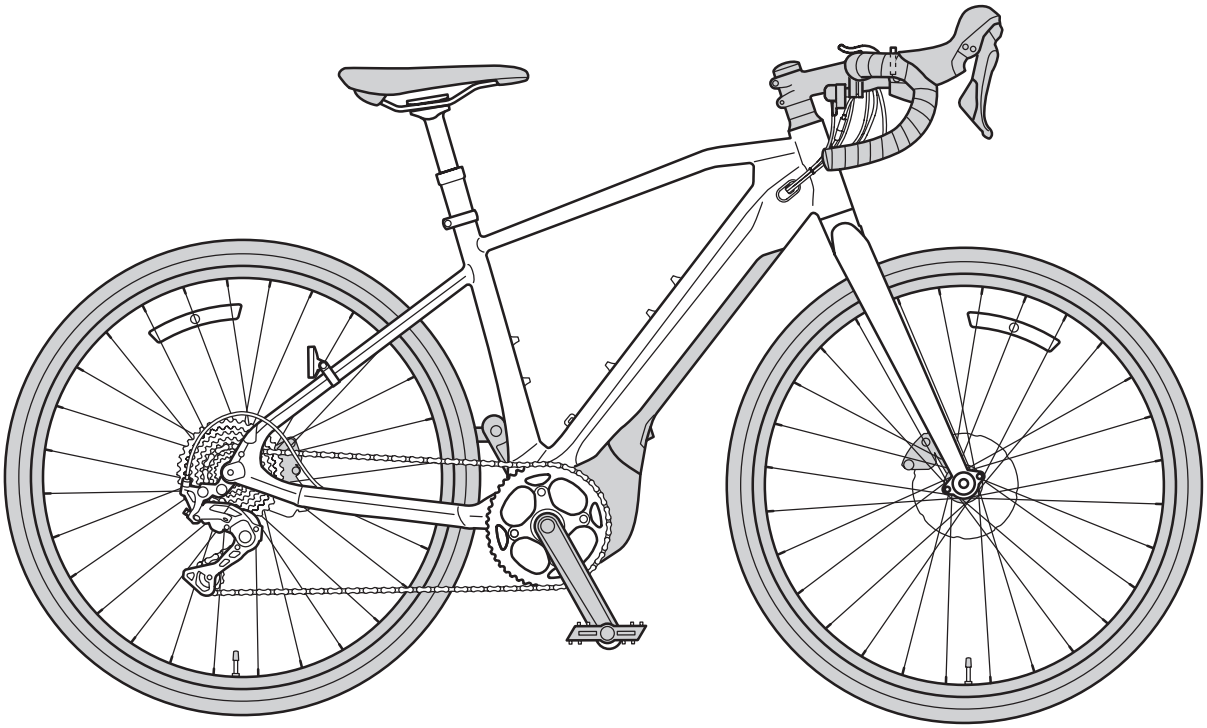
YAMAHA

電動アシスト自転車

取扱説明書

Wabash RT

［ワバシュ アールティー］ 機種名：PC70WRL, PC70WRM, PC70WRS



※仕様変更などによりイラストや内容が一部実車と異なる場合があります。

X2V-F8199-J0

前書き

このたびは、ヤマハ〈YPJ〉をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。ヤマハ〈YPJ〉は電動補助システムを装備している自転車です。
お乗りいただく前に必ず本書をお読みいただき、本製品をご理解の上、ご使用ください。
また、『ヤマハ〈YPJ〉点検・整備の記録』も併せてお読みください。

- この〈YPJ〉は一般乗車用として設計されています。新聞配達などの業務用としてご使用にならないでください。
- 納車時に販売店から、使用方法について充分に説明をお受けください。
- 安全のため、ヘルメットの着用をお勧めします。
- お子様がお使いになる場合は、保護者の方が本書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください。
- 本書と保証書／点検・整備の記録は、紛失しないよう大切に保管し、ご活用ください。
- 保証書は「販売店名、お買い上げ日」などの記入を確かめて販売店からお受け取りください。記入がもれている場合は、販売店にご請求ください。
- この〈YPJ〉を他の人にお譲りになる場合は、本書も一緒にお渡しください。
- 製品保証登録は、ご購入後 7 日以内にヤマハ発動機〈YPJ〉公式ページ「製品保証登録はこちら」よりご登録ください。インターネット環境がない場合は、製品保証登録票ハガキでも登録できます。

YPJ　保証登録　検索

本書では、正しい取り扱いおよび点検・整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで区分しています。

⚠	安全にかかわる注意情報を示してあります。
⚠警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。
⃠	安全上してはいけない「禁止」内容を意味しています。

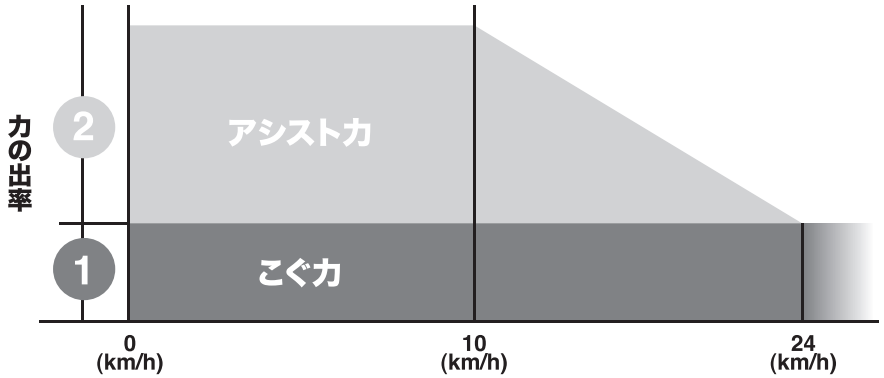
ヤマハ＜ YPJ ＞の特長

電動補助（パワーアシスト）システムにより最適なアシスト力が得られます

- ペダルを踏む力や走行速度などに応じて、基準の範囲内でアシストをします。
- 発進から時速 10km に達するまでは、ペダルを踏む力 “1” に対して最大で “2” の力でアシストすることができます。時速 10km を超えるとしだいにアシスト力を弱めていき、時速 24km でアシストをゼロにします。

要　点

ここでは、アシストの法令基準について説明しています。
YPJ のアシスト比を表しているものではありません。



こんなときは電動補助（パワーアシスト）システムが作動しません。

- システムの電源が切れているとき
- 時速 24km 以上のスピードで走っているとき
- ペダルをこがないとき
- アシストオフモードのとき
- バッテリー残量が無くなったとき
- 自動電源オフ機能が作動したとき
- 走行することができなくなる故障や異常が発生したとき

5 種類の［走行モード］を装備しています

走行状況に合わせて、ハイモード、スタンダードモード、エコモード、プラスエコモード、アシストオフモードの 5 種類から［走行モード］を選べます。走行モードの切り替えかたは**「走行モードとオートマチックアシストモードの表示と切り替え」（29 ページ）**をご参照ください。

ハイモード	急な坂道を登るときなど、より楽に走りたいときに適しています。
スタンダードモード	平坦な道や緩やかな坂道を登るときに適しています。
エコモード	できるだけ長い距離を走りたいときに適しています。
プラスエコモード	
アシストオフモード	普通の自転車として走りたいときに適しています。

クワッドセンサーシステムを採用しています

既存のトリプルセンサーシステム（トルクセンサー、スピードセンサー、クランク回転センサー）に傾斜角センサーを加え、自動的にライディングコンディションを検出し、オートマチックアシストモードにて適切なアシスト力を提供する走行モード切り替えを実現します。

オートマチックアシストモードを装備しています

オートマチックアシストモードは、状況に応じて 3 つの走行モード（エコモード、スタンダードモード、ハイモード）に自動的に変更することで、最適なアシストを提供します。平坦な道路ではアシストを弱め、急な坂道ではアシストを強めます。

自動電源オフ機能を備えています

電源切り忘れによるバッテリー切れを防止するため、5 分間以上操作がない場合および、ペダルに踏む力がかからない状態で放置されると、自動的に電源が切れる機能を備えています。
再び電源を入れるには、ディスプレイ AD の電源ボタンを押してください。

バッテリー残量が無くなっても普通の自転車として走行可能です

万一走行中にバッテリー残量が無くなっても、またバッテリーを取り外しても、普通の自転車として走行することができます。ただし、前照灯は点灯しませんので、夜間やトンネル内などの暗いところでは YPJ から降りて押して歩いてください。

もくじ

1章 2章 3章 4章 5章 6章 7章 8章 9章 10章 11章 12章 13章

1 章 安全上のご注意 5
- 重要ラベルについて 5
- YPJ ご使用中　転倒や衝突事故を防ぐために 6
- YPJ ご使用中　けがを防ぐために 11
- バッテリーの取り扱い中　感電や火災を防ぐために 15
- 充電器の取り扱い中　感電や火災を防ぐために 16
- 充電中　感電や火災を防ぐために 18
- バッテリー・充電器の保管中　事故を防ぐために 19
- 自転車の交通ルールを守りましょう 20
- お乗りになる前の調整 23

2 章 各部の名称 26
- 右側面 26
- 左側面 26
- ハンドル周り 27
- ディスプレイ AD 27

3 章 各部の取り扱いと操作 28
- ディスプレイ AD 28
- 自己診断機能による異常表示 32
- ディスプレイ AD の向きの調整 32
- ディスプレイ AD のステー角度調整 33
- バッテリーロック 33
- ドロッパーシートレバー 33
- 変速レバー 34
- 前照灯 35
- ハンドルブラケット 35
- スルーアクスル 37

4 章 バッテリーの充電 40
- YPJ のバッテリー 40
- 充電に適した環境 40
- 充電のしかた 41
- 充電時間 46
- 充電の確認 47

5 章 お乗りになる前に 48
- 乗車前点検 48
- バッテリー残量の確認 56
- 充電あたりの走行できる距離 58
- 走行距離が短くなる環境や使いかた 59
- 荷物を積載するには 60

6 章 乗りましょう 61
- 発進のしかた 61
- ブレーキのかけかた 61
- 降車のしかた 62

7 章 定期点検 63
- 初回点検（2 か月目点検）と定期点検 63

8 章 お手入れと保管 64
- お手入れのしかた 64
- 保管のしかた 66
- 長期保管（1 か月以上）と長期保管後の再使用 67

9 章 もしもこんなときは 69
- 故障かな？と思ったら 69

10 章 ごぞんじですか？ 74
- バッテリーの特性 74
- バッテリーの寿命と交換 74
- 保証制度 76
- 型式認定済 TS マーク 76
- 自転車保険加入の勧め 76
- ヤマハ〈YPJ〉盗難保険について 77
- 車両情報 79
- 廃棄するときは 80

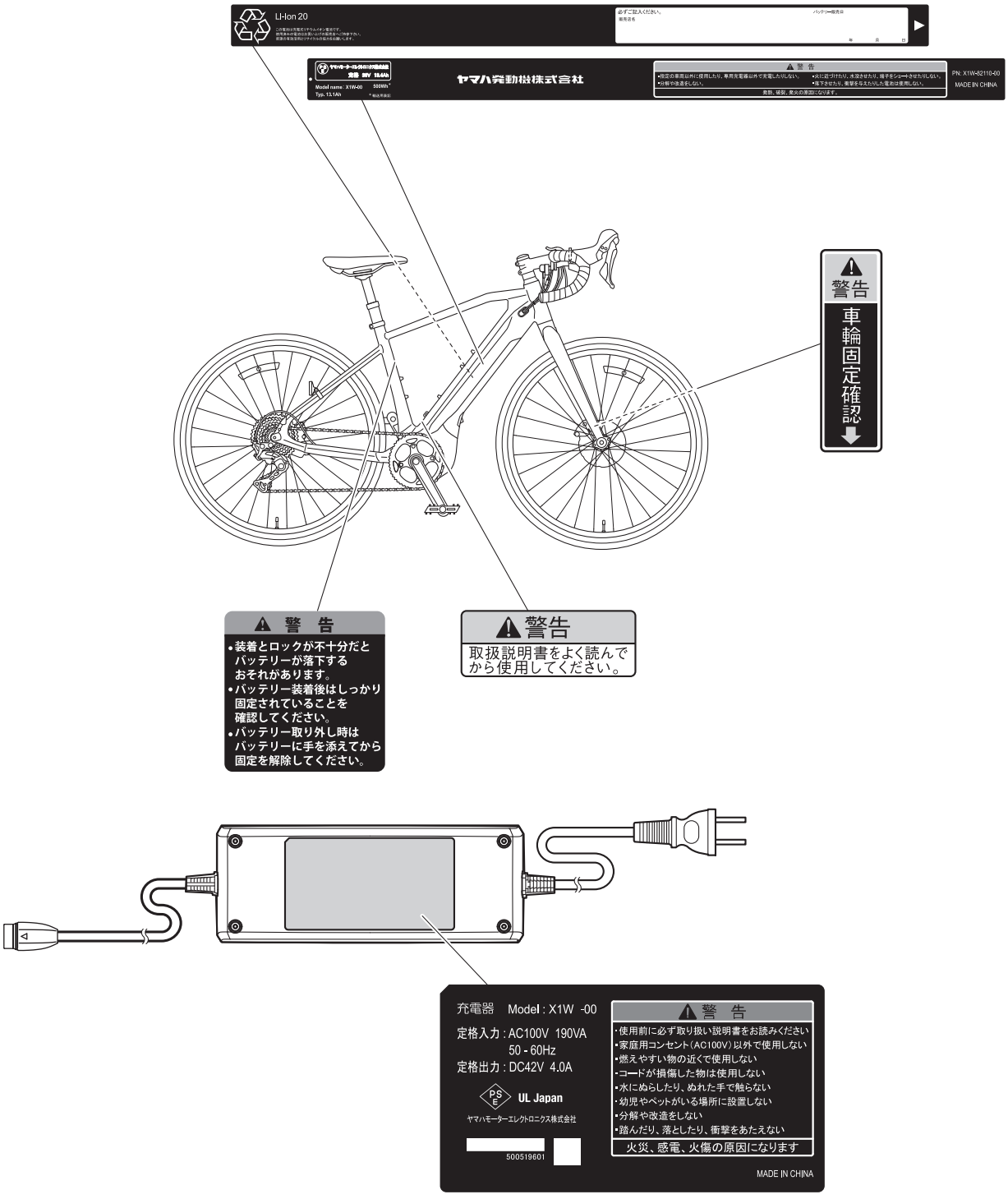
11 章 製品仕様 81

12 章 お客様窓口のご案内 83

13 章 索引 84

重要ラベルについて

「重要ラベル」は、以下の位置に貼付されています。車体や充電器などに貼付されている「重要ラベル」をよくお読みいただき、安全にご使用ください。



YPJ ご使用中　転倒や衝突事故を防ぐために

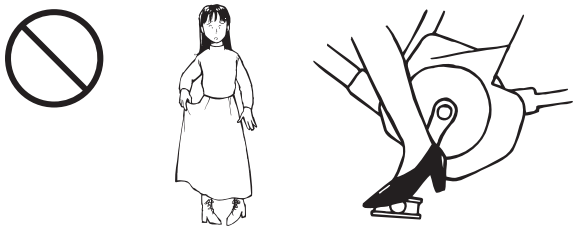
⚠警　告

安全な服装で乗車する

長いマフラー、すその広いズボン、長いスカート、滑りやすい靴やかかとの高い靴などは避けてください。

車輪やチェーンへの巻き込みなどにより、転倒によるけがのおそれがあります。また、足がペダルから外れ、転倒によるけがのおそれがあります。

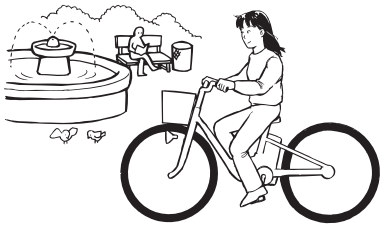
- すそが広がっているズボンは、すそをバンドやゴムで留めてください。



電動アシスト自転車に慣れるまでは、車が通らない平坦な場所（自転車を乗り入れても良い公園や広場など）で充分に練習する

転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。

- 電動アシスト自転車に慣れるまでは「スタンダードモード」で走行してください。
- 周囲の安全確認をしてから練習してください。



乗車前点検は必ず実施する

取扱説明書をよくお読みいただき、必ず点検を実施してください。点検の結果、異常が認められた場合は、すぐに販売店で点検をお受けください。異常のまま使用すると、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

また、わからないときは販売店にご相談ください。

夜間走行前には必ずバッテリーの残量を確認する

前照灯はバッテリーを電源としていますので、バッテリー残量が減少しアシスト走行ができなくなった場合、しばらくすると消灯します。消灯後の乗車は衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

無灯火での走行は法令により禁止されています。

夜間走行中に前照灯が消灯した場合は、YPJから降りて押して歩いてください。

YPJ ご使用中　転倒や衝突事故を防ぐために

⚠警　告

けんけん乗り * をしない

転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。

- 必ずサドルにまたがって、発進してください。

* けんけん乗りとは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかたです。



カーブで曲がる側のペダルを下げない

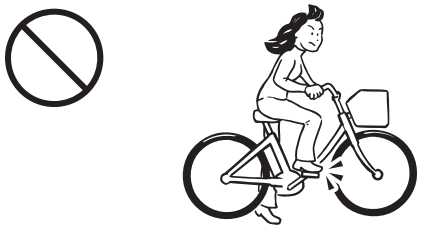
ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。



発進時はペダルを強く踏み込みすぎない

思わぬ急発進により転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。

- 一般の自転車のように強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。



片側だけのブレーキ操作はしない

スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。

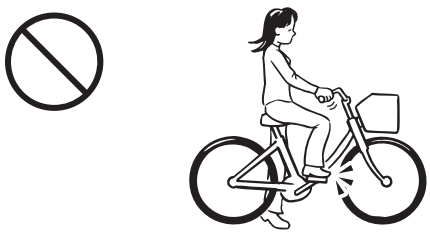
- ブレーキは必ず前後ともにかけてください。



停車中はペダルに足を乗せない

不用意なアシスト力がはたらき、転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。

- 停車中は前後のブレーキをかけてください。



急ハンドル、急ブレーキはしない

スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。

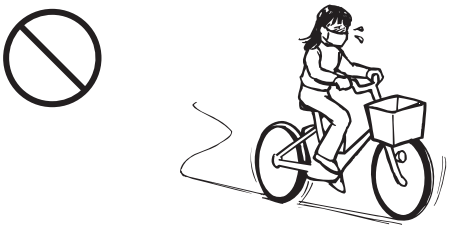
YPJ ご使用中　転倒や衝突事故を防ぐために

⚠警　告

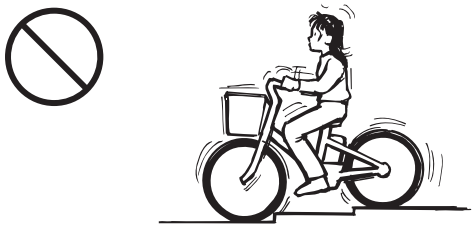
滑りやすいところでは乗らない
積雪や凍結した道、ぬれている鉄板やタイル、点字ブロック、マンホール、ぬかるみなどでは、スリップして転倒によるけがのおそれがあります。
- YPJ から降りて、押して歩いてください。



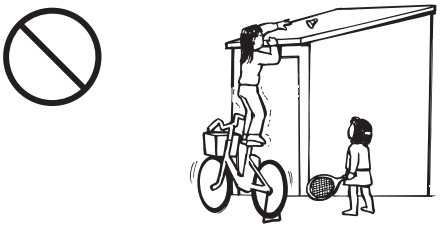
かぜ薬など服用時、および体調が優れないときは乗らない
体調不良時は運動機能が低下し、衝突などによるけがのおそれがあります。



凹凸の激しいところを走らない（大きな段差や、溝など）
ハンドルを取られて転倒によるけがのおそれがあります。また、フレームや車輪、またはドライブユニットなどが損傷し、転倒によるけがのおそれがあります。
- YPJ から降りて、押して歩いてください。



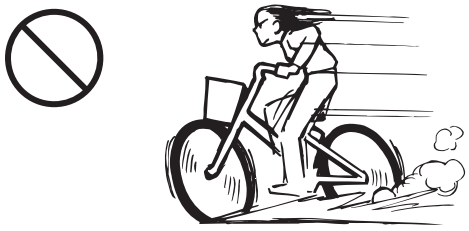
踏み台代わりなど走行以外に使わない
転倒によるけがのおそれがあります。



YPJ ご使用中　転倒や衝突事故を防ぐために

⚠警　告

乱暴な乗りかたはしない
アクロバット的な乗りかたや急発進・急旋回をすると、転倒や落車などによるけがのおそれがあります。

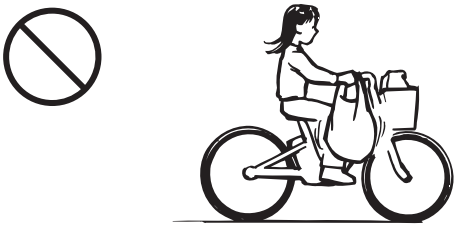


雨天時は前後ブレーキを併用し、速度を落として走行する
雨天時では、タイヤが滑りやすくなったりブレーキの効きが弱くなることがあり、転倒によるけがのおそれがあります。
- とくに雨、風、雪がひどいときは、YPJ から降りて押して歩いてください。



YPJ が完全に止まってから降りる
YPJ が完全に止まる前に飛び降りるようにして降りると、バランスを崩して転倒やけがのおそれがあります。

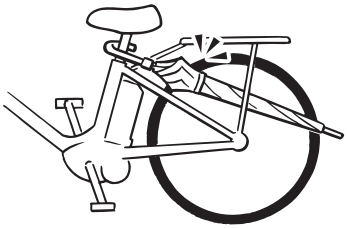
手やハンドルに荷物や傘をかけたり、ペットをつながない
荷物やひもが車輪に巻き込まれたり、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。



スポークの間に物をはさんで走らない
車輪に巻き込まれるなどして転倒によるけがのおそれがあります。



傘やステッキ、釣り竿などを車体に差し込んだり、車輪の近くにつり下げて走らない
車輪に巻き込んだり、他の人や物にぶつけて事故や転倒によるけがのおそれがあります。



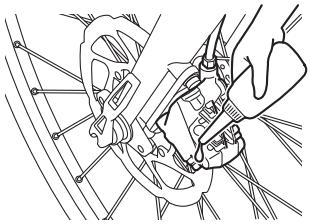
YPJ ご使用中　転倒や衝突事故を防ぐために

⚠警　告	
チャイルドシートを使用しても２人乗りをすることはできません • この YPJ は、チャイルドシート（別売アクセサリー品を含む）を使用して 2 人乗りができる設計をしていません。 • 別売アクセサリー品のリヤキャリアには、チャイルドシート（別売アクセサリー品を含む）を取り付けることができません。	

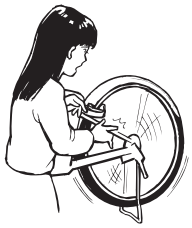
YPJ ご使用中　けがを防ぐために

⚠警　告

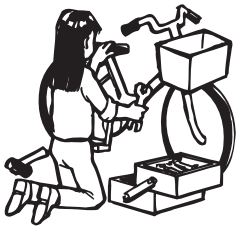
ブレーキの制動面などに注油しない
ブレーキが効かなくなり、衝突によるけがのおそれがあります。



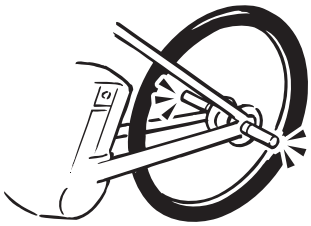
車輪･チェーンなどの回転部に手や足､物などを近づけない
また、子どもを近づけない
車輪やチェーンに巻き込まれ、けがをするおそれがあります。



改造や分解はしない
部品が破損したり、外れたりして転倒によるけがのおそれがあります。



ハブステップなどの突起物を装着しない
歩行者などに危害をおよぼすおそれがあります。



純正部品を使用する
純正部品以外の取り付けは、事故や故障の原因になることがあります。
- 純正部品以外を使用すると保証の適応が受けられない場合があります。

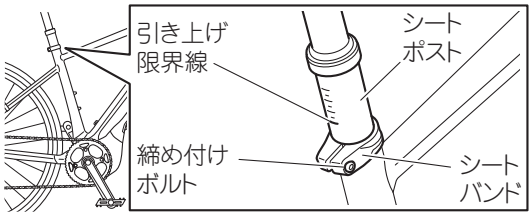
YPJ ご使用中　けがを防ぐために

⚠警　告

シートポストの高さ調整をするときは、引き上げ限界線が見えない範囲で調整する

シートポストが破損したり脱落したりして、けがをするおそれがあります。

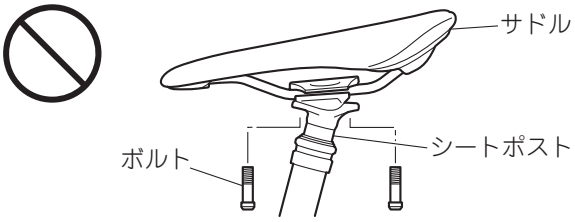
- シートバンドの締め付けボルトをゆるめ、シートポストの高さを調節します。このとき、引き上げ限界線が見えない範囲で調整してください。



サドルの位置調整はしない

サドルとシートポストを固定しているボルトは、適切な力で締め付けられています。ボルトがゆるむと、部品が破損したり、外れたりして転倒やけがをするおそれがあります。

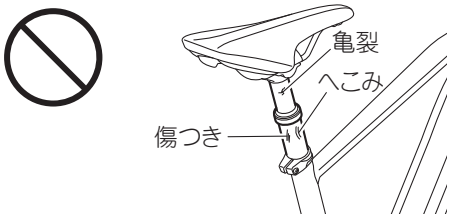
- サドルの位置調整が必要な場合は、販売店にご相談ください。



シートポストに傷つき、へこみ、または亀裂があるときは使用しない

シートポストが破損したり脱落したりして、けがをするおそれがあります。

- 異常がある場合は、販売店にご相談ください。



調整後はサドルが確実に固定されていることを確認する

サドルが確実に固定されていないと、安定した走行に支障をきたすことに加えて、シートポストが破損したり脱落したりして、けがをするおそれがあります。



シートバンドの締め付けボルトを締め付けすぎない

指定の締め付けトルクを超えてボルトを締め付けると、シートポストが破損したり脱落したりして、けがをするおそれがあります。

- ご自身での作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。

シートポストをシートパイプから完全に抜かない

シートポストから作動ワイヤーが外れ、作動不良や故障の原因となります。

- 作動ワイヤーが外れた場合は、販売店にご相談ください。

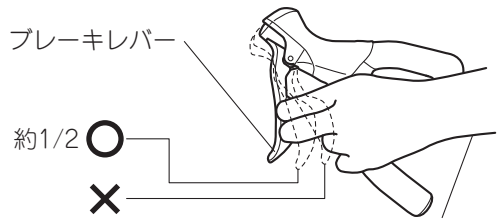
YPJ ご使用中　けがを防ぐために

⚠警　告

ブレーキが確実に作動するか点検する

ブレーキを使うたびにブレーキパッドは摩耗し、場合により調整を必要とします。ブレーキレバーを握ったときに、ブレーキレバーとバーテープの隙間で調整状態を確認します。調整不良の場合はブレーキが効かなくなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

- すぐに販売店で点検・整備をお受けください。



ブレーキの取り付け部にゆるみやがたつきがないか点検する

異常があるとブレーキが効かなくなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

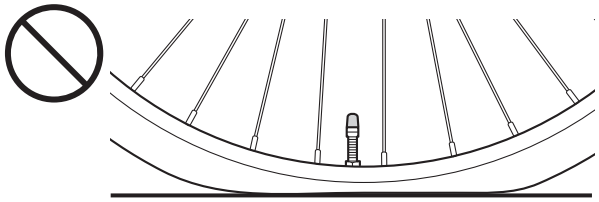
- すぐに販売店で点検・整備をお受けください。



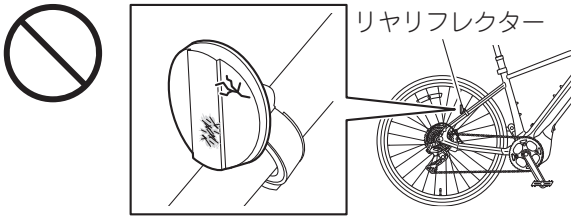
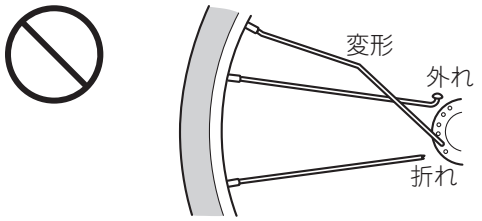
タイヤの空気圧を点検し、不適正の場合は空気圧を調整する

異常があると安定した走行に支障をきたし、転倒によるけがのおそれがあります。

- お乗りいただく前に空気圧を調整してください。



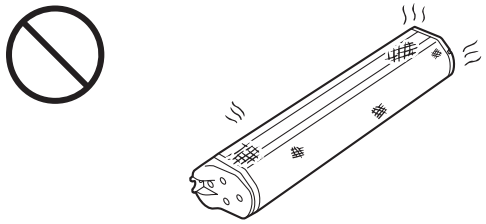
YPJ ご使用中　けがを防ぐために

⚠警　告	
ハンドルを操作したときに引っかかり感がないか確認する 異常があると走行中にハンドル操作ができなくなり、転倒によるけがのおそれがあります。 • 異常がある場合はすぐに販売店で点検・整備をお受けください。	**リヤリフレクターに汚れや破損がある場合は夜間乗らない** 異常があると夜間走行時の被視認性が悪くなり、衝突されるおそれがあります。 • 汚れはふき取ってください。 • 破損している場合は、すぐに販売店で点検・整備をお受けください。 
前後車輪のスポークが折れたり、外れたり、変形していないか点検する 異常があると安定した走行に支障をきたし、転倒によるけがのおそれがあります。 • すぐに販売店で点検・整備をお受けください。 	**ベルが鳴るか点検する** 異常があると緊急時の警告に支障をきたし、衝突のおそれがあります。 • すぐに販売店で点検・整備をお受けください。
タイヤが摩耗していないか点検する 異常があると安定した走行に支障をきたし、転倒によるけがのおそれがあります。 • すぐに販売店で点検・整備をお受けください。	

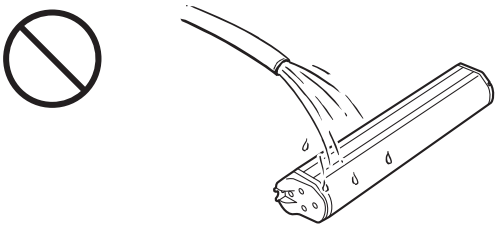
バッテリーの取り扱い中　感電や火災を防ぐために

⚠警　告

バッテリーケースに破損や傷つきがあるとき、または異臭がするときは使用しない
液漏れなどにより、やけどやけがなどのおそれがあります。
- 異常を感じたときは、すぐに販売店にご相談ください。



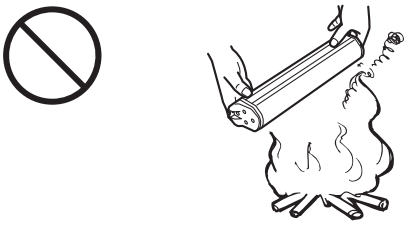
バッテリーに水をかけたり、水の中に入れない
発熱、発火、破損、故障の原因となります。



バッテリー底部の接点を短絡（ショート）させない
発熱、発火、感電の原因となります。



バッテリーを火中に投入したり、過熱しない
発熱、発火、破損、故障の原因となります。



バッテリーを落としたり、衝撃を与えない
発熱、発火、破損、故障の原因となります。

専用充電器を使用する
発熱、発火、破損、故障の原因となります。

バッテリーの分解や改造をしない
発熱、発火、破損、故障の原因となります。

改造・加工などをしたバッテリーパックは使用しない
発熱、発火、破損、故障の原因となります。

バッテリーを装着する前に、バッテリーと車体の接続部や充電コネクター部に異物が付着していないか、水にぬれていないか確認する
発熱、煙、火災などの原因になります。

注　意

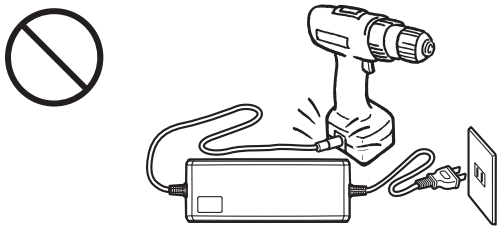
バッテリーを他の電気機器に使用しない
他の電気機器に使用すると故障の原因となります。

充電器の取り扱い中　感電や火災を防ぐために

⚠警　告

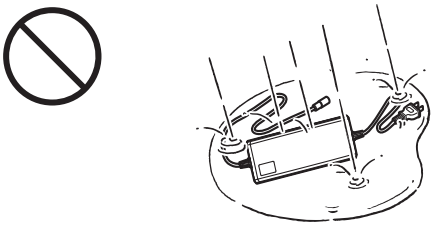
YPJ 専用充電器は他の電気機器に使用しない

他の電気機器などに使用すると、火災や破裂の原因になります。



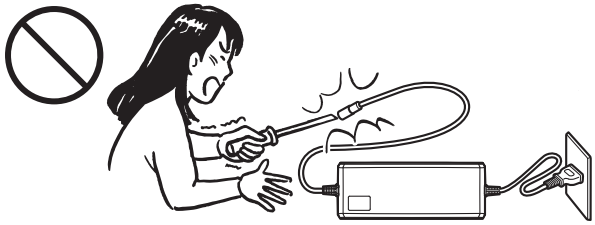
充電器を水でぬらしたり、屋外で使用しない

感電や火災、故障の原因になります。



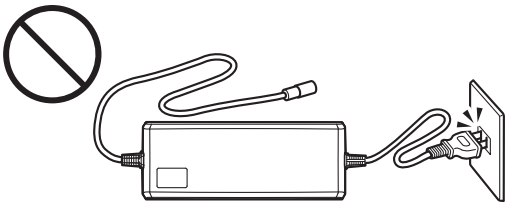
充電端子を金属などで短絡（ショート）させない

発熱、発火、感電の原因となります。



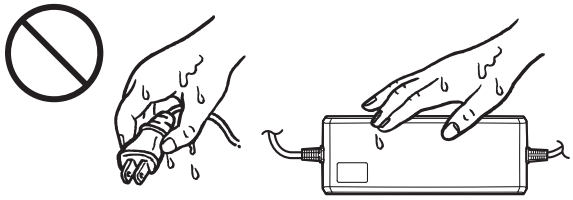
電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。



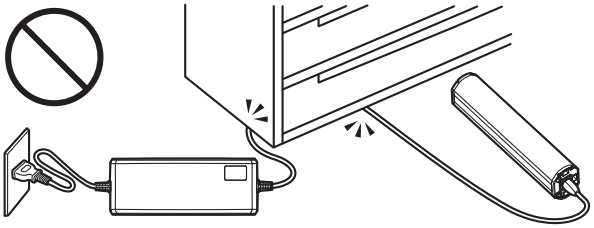
ぬれた手で電源プラグを取り扱ったり、充電端子に触れたりしない

感電するおそれがあります。

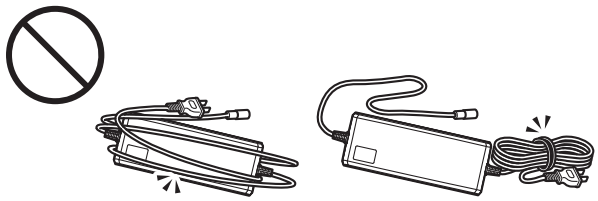


コードの上に物を乗せたり、はさんで固定しない

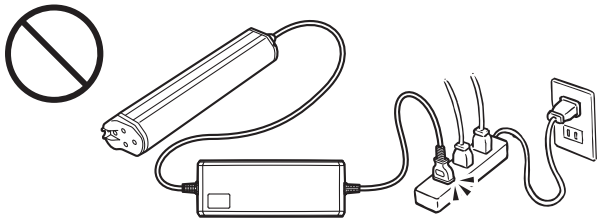
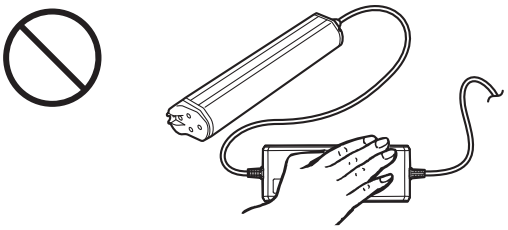
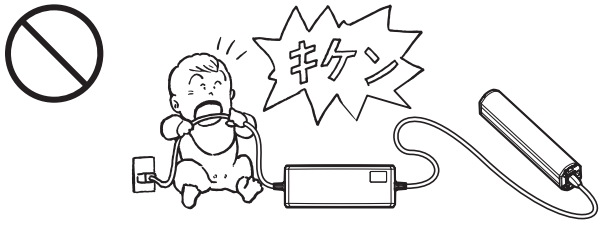
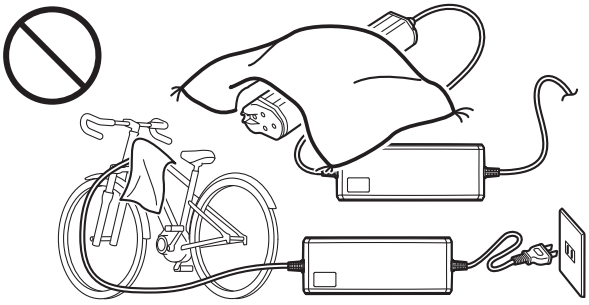
感電や火災の原因になります。



充電器の取り扱い中　感電や火災を防ぐために

⚠警　告	
コードを束ねた状態で使用したり、充電器本体に巻きつけて保管しない コードの損傷により、感電や火災などの原因となるおそれがあります。 	**充電端子にボタン電池や乾電池を接触させない** 破裂・発火のおそれがあります。
充電器を分解したり、改造しない 感電や火災の原因になります。	**充電器を踏んだり、落としたり、衝撃を与えない** 発熱、発火、破損、故障の原因となります。

充電中　感電や火災を防ぐために

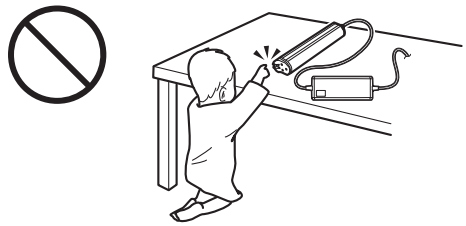
⚠警　告	
コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、家庭用コンセント（AC100V）以外で使用しない たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。 	**充電中は長時間、皮膚を充電器の同じ場所に触れさせない** 充電中は 40 ℃～ 70 ℃になる場合があり、低温やけどのおそれがあります。 
幼児やペットが触れるところに放置しない 感電や火災、故障の原因になります。 	**充電中に周囲にカバーをしたり、燃えやすい物を置かない** 内部が発熱し、火災のおそれがあります。 
ガソリンなどの引火物や引火性ガスの近くでは充電しない 火災や爆発などの原因となることがあります。	**コードが損傷しているときは使用しない** 感電や火災のおそれがあります。
電源プラグのほこりなどは定期的に取る 湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。	

バッテリー・充電器の保管中　事故を防ぐために

⚠警　告

バッテリーや充電器を幼児やお子様の手の届くところに置かない

落下してけがをするおそれがあります。



注　意

YPJ 専用充電器を家庭用コンセント（AC100V）につないだままにしない

落雷などによる故障のおそれがあります。YPJ 専用充電器をご使用にならないときは、コンセントからプラグを抜いておいてください。

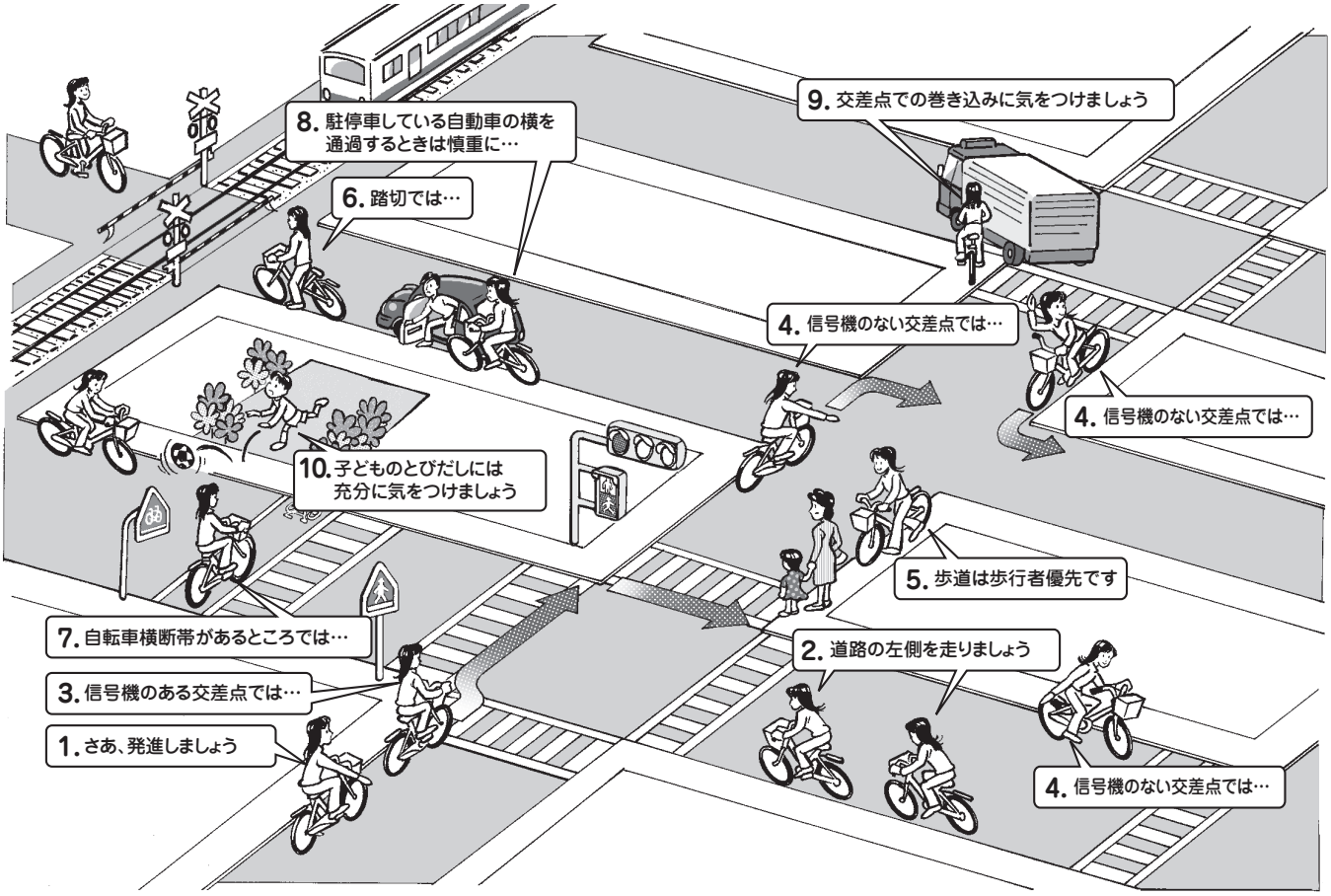
自転車の交通ルールを守りましょう

⚠警　告

快適に、そして安全に乗るために交通ルールを守って安全運転を心がけましょう。交通ルールを守らないと、衝突や転倒などによるけがのおそれがあります。

法令を遵守した走行をしましょう。飲酒運転、2人乗り、並進[*1]、片手運転、無灯火運転、車道（路側帯）の右側通行などは法律により禁止されています。違反すると、道路交通法の罰則を受けることがあります。

[*1]「並進可」標識がある場合を除きます。



1. さあ、発進しましょう

周囲の安全を確認して、道路の左側から発進します。
右手を地面と平行に真横にだして、後方から来る車にスタートの合図をします。

2. 道路の左側を走りましょう

自転車は、車道の左側通行が原則です。

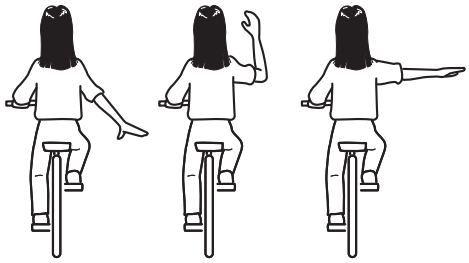
3. 信号機のある交差点では …

信号をしっかり守り、横断しましょう。
正面の信号が青のとき、直進、左折ができます。
右折するときは、2 段階右折をしてください。2 段階右折のしかたは、正面の信号が青になったら一旦向こう側までわたり、止まります。次に右側の信号が青になってから進みます。

4. 信号機のない交差点では …

信号機のない見通しの悪い交差点では、周囲の安全を充分に確かめてから進みます。
曲がるとき、止まるときは合図をしましょう。右折・左折とも、30m くらい手前から合図をだします。

- 右折の合図は、右手を地面と平行に真横にだします。
- 左折の合図は、右手を地面と平行に真横にだし、さらにひじを直角に上に曲げます。
- 停止の合図は、右手を斜め下にだします。



5. 歩道は歩行者優先です

『自転車および歩行者専用』の標識や表示があるところでは、歩道を通行することができますが、通行できる部分が指定されている場合は指定された部分を、指定されていない場合は歩道中央から車道よりの部分を、徐行しながら通行します。
また、歩行者の通行を妨げるおそれのある場合は、一時停止します。



6. 踏切では …

踏切の手前で停車し、自転車の左側に降りてください。遮断機が上がっているときも踏切の手前で停止し、左右の安全を確認してからわたりましょう。

7. 自転車横断帯があるところでは …

自転車横断帯があるところを通行しなければなりません。



8. 駐停車している自動車の横を通過するときは慎重に …

駐停車中、または渋滞などで止まっている自動車は、急にドアが開くおそれがあります。あらかじめスピードを充分に落としてから通過するようにしましょう。

9. 交差点での巻き込みに気をつけましょう

交差点はいちばん事故が起こりやすいところです。とくに大型車の左折による巻き込み事故に充分に気をつけましょう。また、自分が左折するときも、周囲の安全を確かめてから曲がるようにしましょう。

10. 子どものとびだしには充分に気をつけましょう

近くに公園や学校があるような道路では、とくに子どものとびだしに気をつけましょう。

スピードのだしすぎや急ブレーキはやめましょう

- 下り坂や雨の日、ぬれた路面などは、滑りやすいのでブレーキ操作に気をつけましょう。
- ブレーキがぬれているときは制動距離が長くなりますので、スピードは控えめにしましょう。
- カーブや交差点などではスピードを充分に落とし、ゆとりあるブレーキ操作で安全運転を心がけましょう。
- ブレーキをかけるときは、必ず前後ともにかけます。前後どちらか片方だけのブレーキ操作は、転倒や横滑りの原因になります。
- 長い下り坂でブレーキをかけっぱなしにすると、ブレーキが加熱して効かなくなるおそれがあります。前後ブレーキを小刻みにかけるようにしましょう。

『止まれ』の標識があるところでは …

『止まれ』の標識の手前で一旦停車し、周囲の安全を確認してから走り出しましょう。



横断歩道をわたるときは一時停止を忘れずに！

横断歩道の手前で一旦停車し、左右の安全を確認してから進みましょう。

お乗りになる前の調整

正しい運転姿勢になるようにシートポストの高さ、ハンドルの高さおよびブレーキレバーの位置を調整してください。
シートポストの高さ、ハンドルの高さおよびブレーキレバーの位置調整は工具が必要です。調整が必要な場合は販売店にご相談ください。

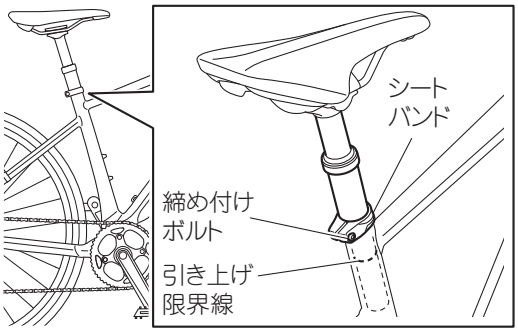
正しい運転姿勢



サドルに腰掛け、両手をハンドルに軽くかけた状態で、以下のようにします。

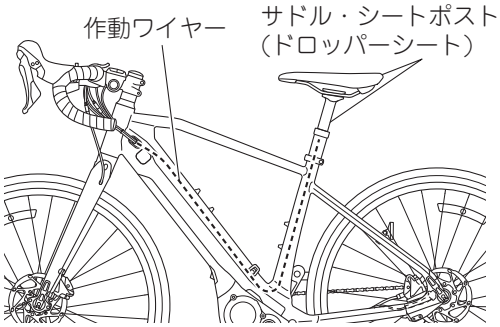
- 両ひじは軽く曲がる
- ひざがハンドルに当たらない
- 両手の指がブレーキレバーを余裕をもって握れる

シートポストの高さ調整のしかた



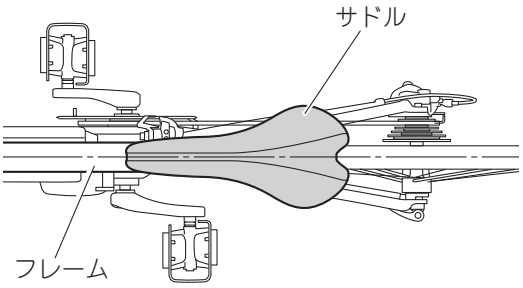
⚠警 告

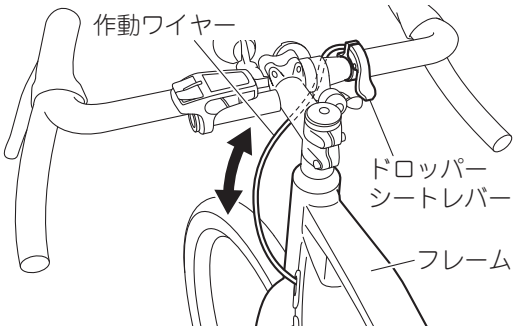
- **ご自身での調整作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。**
- **安全な場所で、車両を停車させて行ってください。**
- **引き上げ限界線が見えるまで引き上げないでください。**
- **調整後はがたつきやずれがないかご確認ください。**
- **調整後は締め付けボルトを指定トルクで締め付け、シートポストを確実に固定してください。**

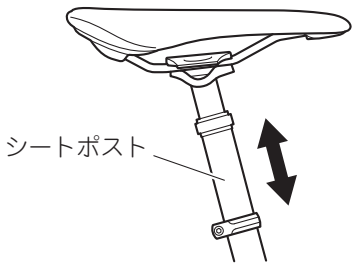


注 意

- **シートポストの締め付けボルトは、指定トルク以上に締め付けないでください。締め付けすぎると、ドロッパーシートの作動不良や故障の原因となります。**
- **ドロッパーシートのシートポストには、作動ワイヤーが接続されています。シートポストの高さ調整を行う場合は、手順に従って調整を行ってください。シートポストを無理に引っ張ったり、押し込んだりすると作動ワイヤーが破損し、作動不良や故障の原因となります。**
- **ドロッパーシートのシートポストをシートパイプから完全に抜かないでください。シートポストから作動ワイヤーが外れ、作動不良や故障の原因となります。作動ワイヤーが外れた場合は、販売店にご相談ください。**







要　点

シートポストの高さ調整には工具が必要です。

シートポストの高さは、次の方法で調整してください。

1 シートバンドの締め付けボルト 1 本をゆるめます

2 サドルの高さと向き（図を参照）を調整します

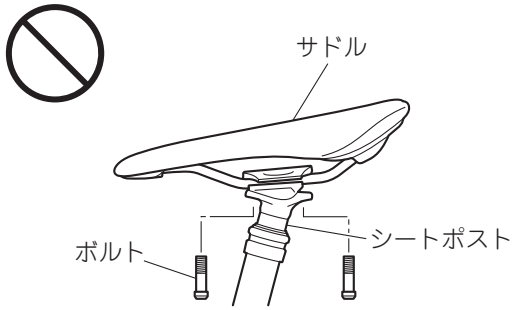
シートポストの高さを上げる場合は、ドロッパーシートレバーに接続されている作動ワイヤーをフレーム内に押し込みながら、ゆっくりとシートポストを引き上げてください。

シートポストの高さを下げる場合は、ドロッパーシートレバーに接続されている作動ワイヤーをフレーム内から引き出しながら、ゆっくりとシートポストを押し込んでください。

3 シートバンドの締め付けボルトを締め付けます

シートバンド締め付けトルク： 3.0N·m（0.30kgf·m）

サドルの位置調整について



⚠警 告

サドルとシートポストを固定しているボルトは、適切な力で締め付けられています。ボルトがゆるむと、部品が破損したり、外れたりして転倒やけがをするおそれがあります。サドルの位置調整が必要な場合は、販売店にご相談ください。

ハンドルの高さ調整のしかた

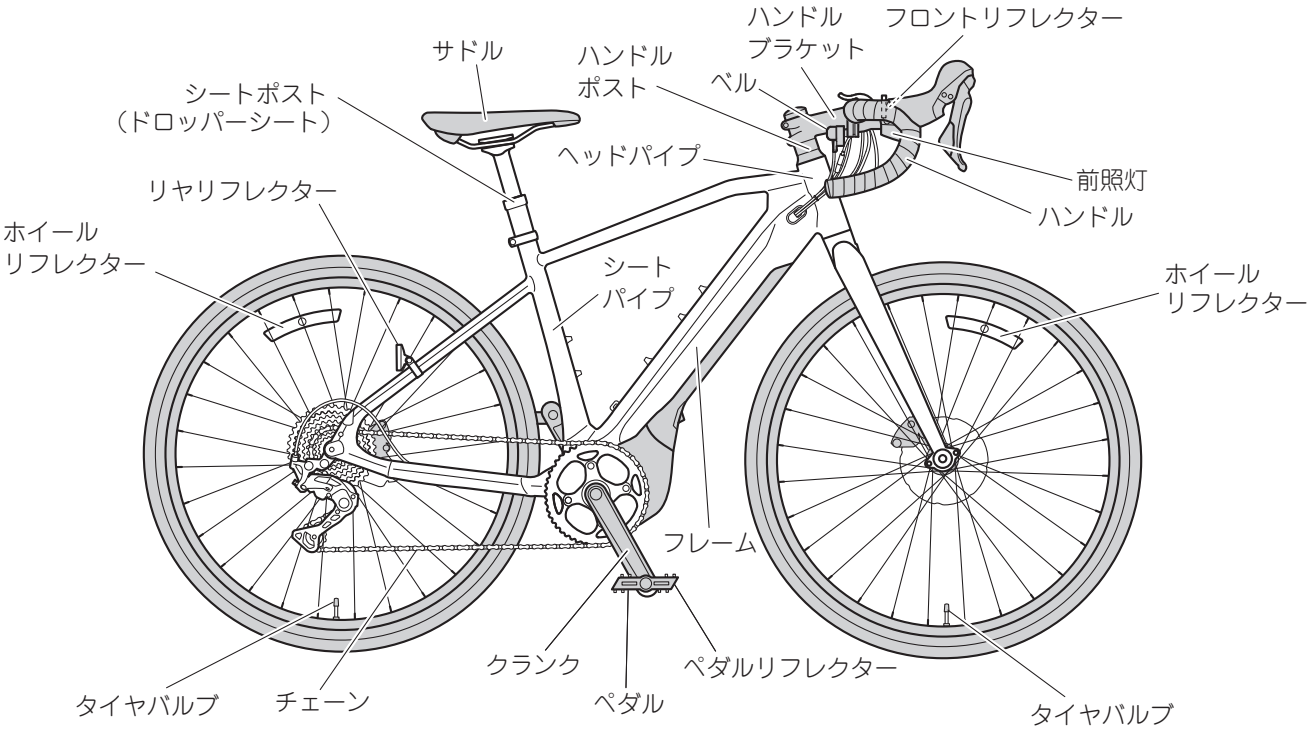
ハンドルの高さ調整については**「ハンドルブラケット」（35 ページ）**をご参照ください。

ブレーキレバーの位置調整のしかた

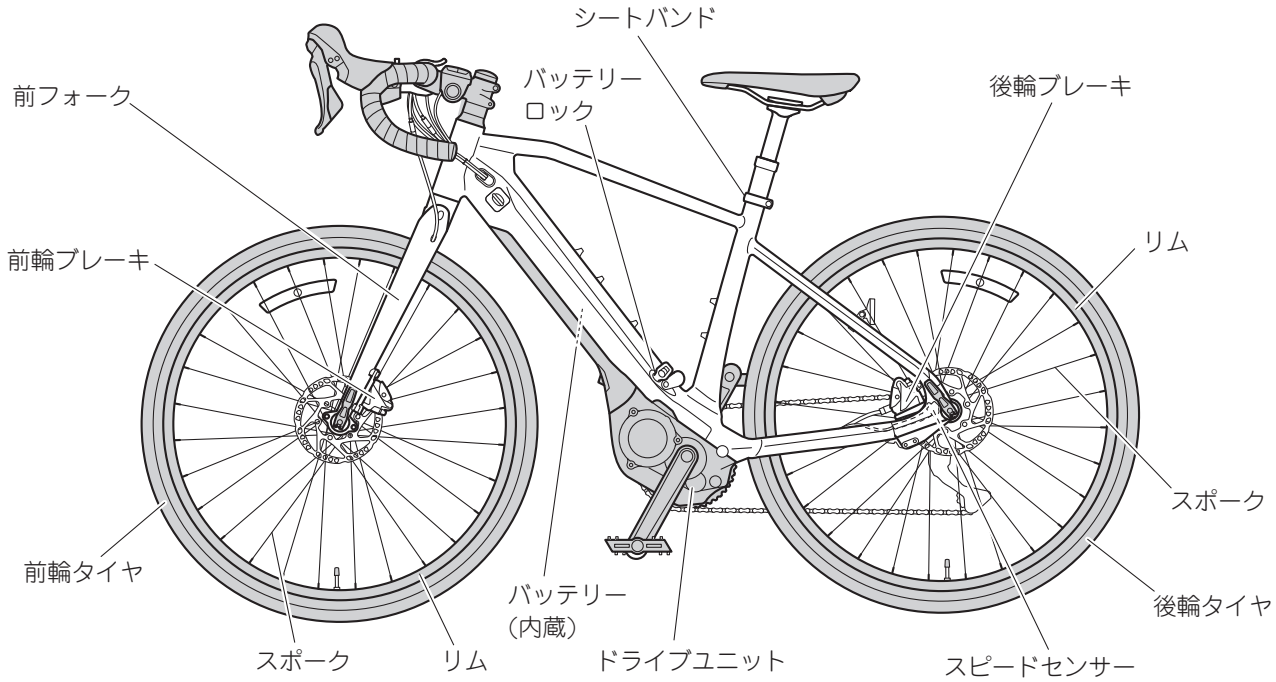
ブレーキレバーの位置調整については**「前後ブレーキレバーの位置調整」（62 ページ）**をご参照ください。

2章 各部の名称

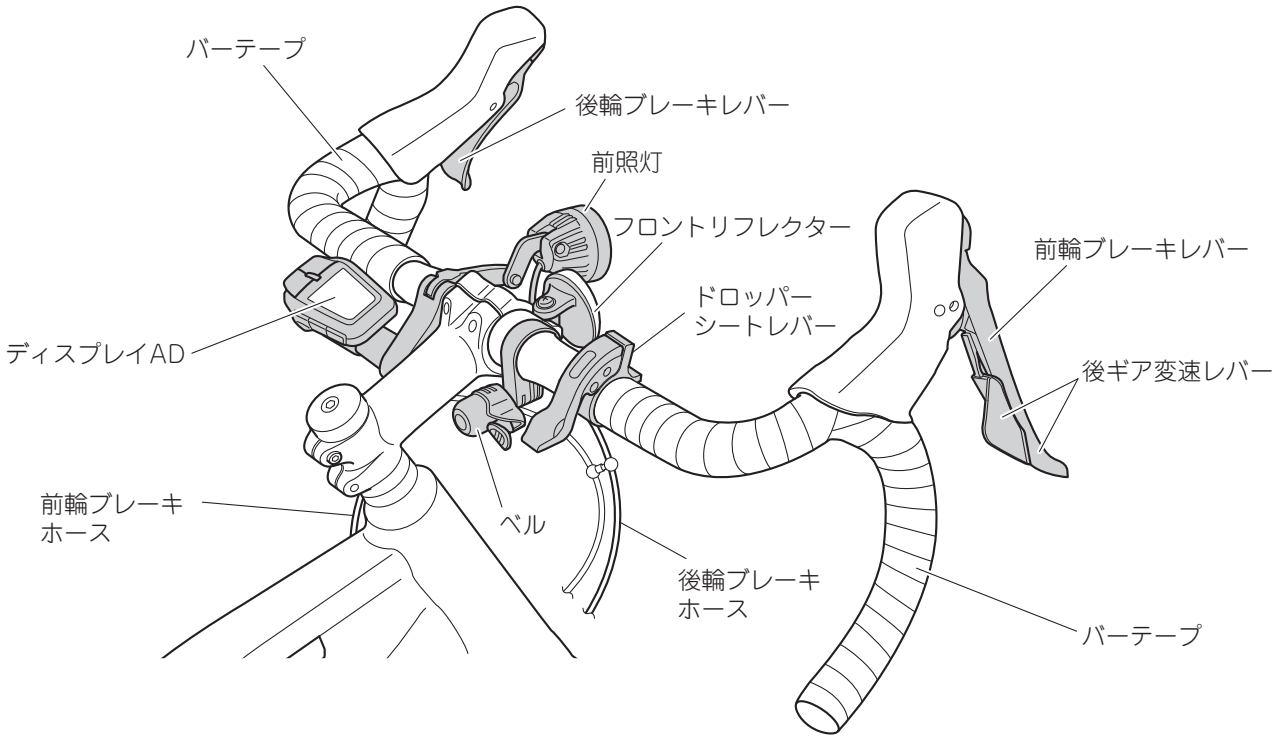
右側面



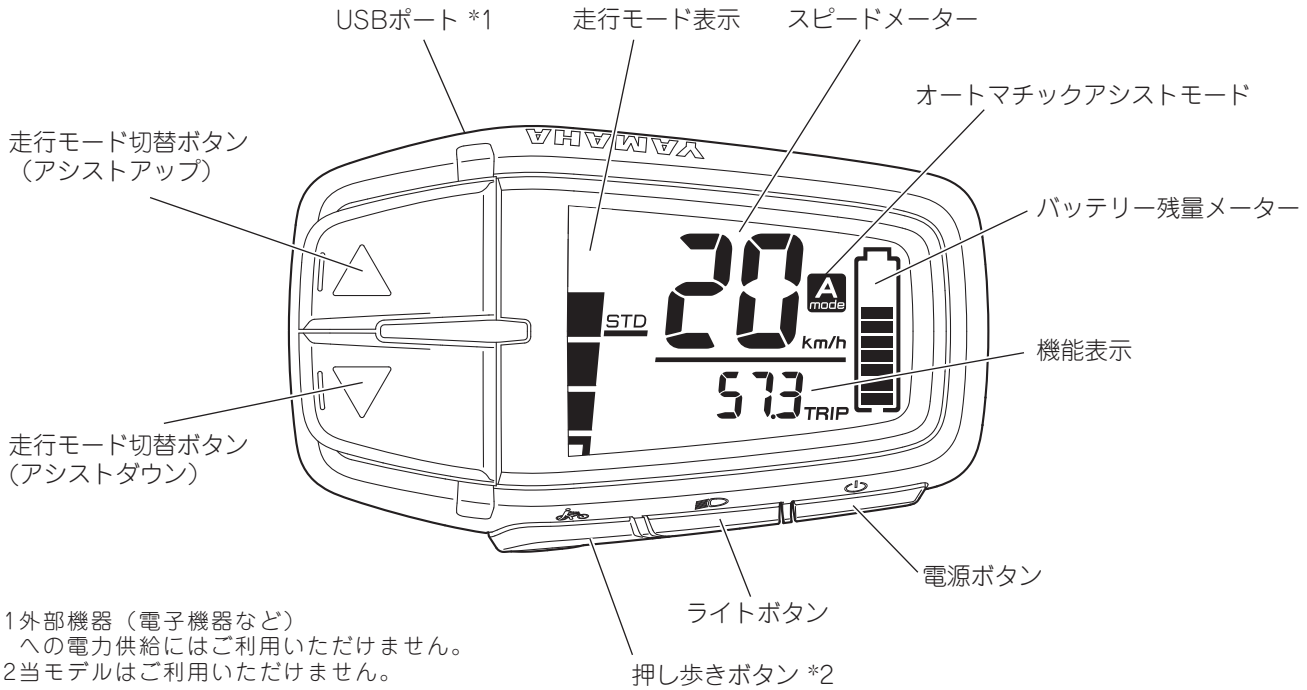
左側面



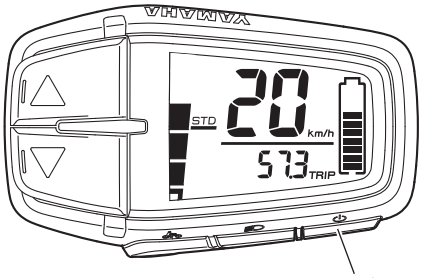
ハンドル周り



ディスプレイ AD



*1外部機器（電子機器など）
　への電力供給にはご利用いただけません。
*2当モデルはご利用いただけません。



ディスプレイ AD

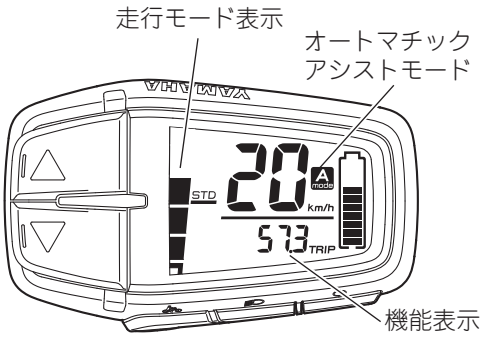
ディスプレイ AD には、以下の表示や機能があります。

電源ボタン

電源ボタンを押すごとに、電源の「入」と「切」を繰り返します。電源が入ると、全てのセグメントが表示され、その後、現在の状態を表示します。

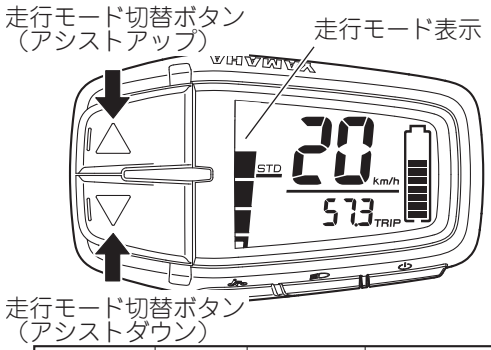
要　点

足をペダルから外した状態でディスプレイ AD の電源を入れてください。ディスプレイ AD の電源を入れてすぐに走行を開始しないでください。アシスト力が弱くなるおそれがあります。（どちらの場合でも、アシスト力が弱いのは故障ではありません。）上記のいずれかを誤って行った場合は、足をペダルから外して電源を入れなおし、少し経った（約 2 秒）後、走行を始めてください。



項目	電源 ON したときの状態
オートマチックアシストモード A mode	前回電源を切ったときの状態
走行モード	オートマチックアシストモードでなければ、スタンダードモード オートマチックアシストモードならば自動的に変わる
機能表示	前回電源を切ったときに表示していた項目

走行モードとオートマチックアシストモードの表示と切り替え



オートマチックアシストモード表示	走行モード切替操作	走行モード	走行モード表示
非表示	▲▼	ハイモード	
	▲▼	スタンダードモード	
	▲▼	エコモード	
	▲▼	プラスエコモード	
		アシストオフモード	
A mode	自動切替 ▲▼は無効	ハイモード	
		スタンダードモード	
		エコモード	

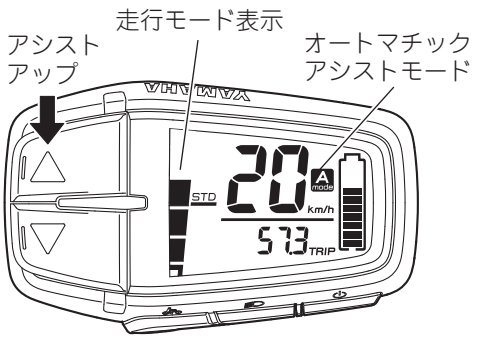
走行モード切り替え（A mode 非表示）

走行モード表示は、選択されている走行モードを表示します。走行モード切替ボタンを押すと、走行モードを切り替えることができます。

- 走行モード切替ボタン（アシストアップ）を押すと、アシストオフモード→プラスエコモード→エコモード→スタンダードモード→ハイモード、と走行モードが切り替わります。
- 走行モード切替ボタン（アシストダウン）を押すと、ハイモード→スタンダードモード→エコモード→プラスエコモード→アシストオフモード、と走行モードが切り替わります。

要　点

- 走行モードを切り替える際は押してすぐ離してください。
- 走行モードは、1 回のボタン操作で 1 段階変わります。
- アシストオフモードから走行モード切替ボタン（アシストダウン）を押しても、アシストオフモードから変わりません。また、ハイモードから走行モード切替ボタン（アシストアップ）を押しても、ハイモードから変わりません。



オートマチックアシストモード（A mode 表示）

オートマチックアシストモードは、走行状態に応じて 3 つの走行モード（エコモード、スタンダードモード、ハイモード）に自動的に変更します。

走行モード切替ボタン（アシストアップ）を 1 秒長押しすることで、オートマチックアシストモードと、ボタン操作による走行モード切り替えを、交互に選択できます。

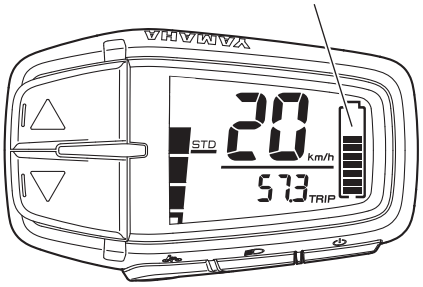
- 走行モード切替ボタン（アシストアップ）を 1 秒長押しすると、オートマチックアシストモードに切り替わります。このとき A mode を表示します。
- 走行モード切替ボタン（アシストアップ）をもう一度 1 秒長押しすると、オートマチックアシストモードがキャンセルされます。このとき A mode の表示が消えます。

要　点

- オートマチックアシストモードでは、ボタン操作による走行モード切り替えはできません。
- どの走行モードからでも、走行モード切替ボタン（アシストアップ）を 1 秒長押しすると、オートマチックアシストモードに切り替わります。

バッテリー残量メーターの表示

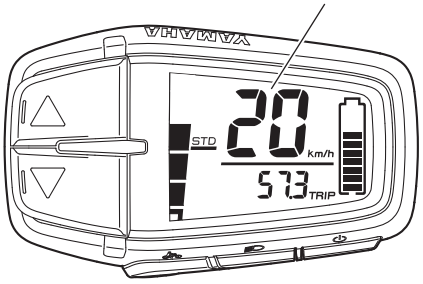
バッテリー残量メーター



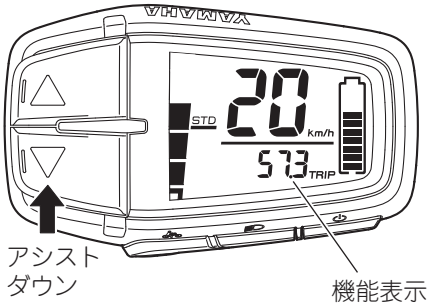
バッテリー残量の目安を 11 段階で表示します。
バッテリー残量の目安については**「バッテリー残量メーターの表示とバッテリー残量の目安」（56 ページ）**をご参照ください。

スピードメーターの表示

スピードメーター



走行速度を表示します。



機能表示

機能表示は、切り替え操作をすることで以下の表示をします。

- オドメーター
- トリップメーター
- 残りアシスト走行可能距離

走行モード切替ボタン（アシストダウン）を長押しするごとに、オドメーター→トリップメーター→残りアシスト走行可能距離、というように切り替わります。

15.7 ODO

オドメーター

電源を入れた状態で走行した積算走行距離を表示します。

要　点

オドメーターは最大値 99999km を超えると 0km に戻ります。

33.1 TRIP

トリップメーター

電源を入れた状態で走行した積算走行距離を表示します。
電源を切っても、それまでのデータは残っています。
トリップメーターはリセット可能です。
トリップメーターをリセットして新たに積算を開始するには、トリップメーターが表示されている状態で走行モード切替ボタンの（アシストアップ）と（アシストダウン）を同時に 2 秒以上押します。

要　点

トリップメーターは最大値 9999.9km を超えると 0km に戻ります。

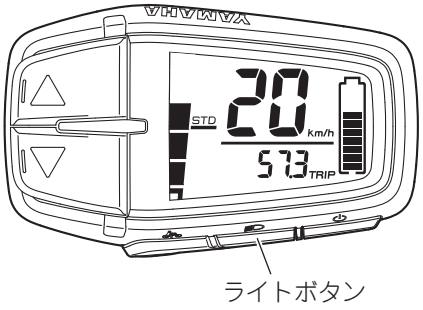
86 RANGE

残りアシスト走行可能距離

取り付けられているバッテリーの残量でアシスト走行ができる距離の目安を表示します。残りアシスト走行可能距離が表示された状態で走行モードを切り替えると、アシスト走行ができる距離の目安は変化します。

要　点

- 残りアシスト走行可能距離は、走行状況（坂道、向かい風など）やバッテリーの劣化状態により変化します。
- アシストオフモードの場合は、[----] が表示されます。

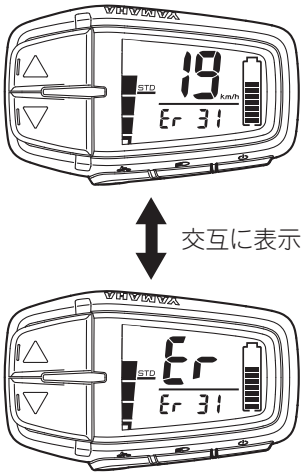


ライトボタン

前照灯の「入／切」

ライトボタンを押すごとに、前照灯が点灯と消灯を繰り返します。
前照灯については**「前照灯」（35 ページ）**をご参照ください。

自己診断機能による異常表示



この YPJ は、パワーアシストシステムの自己診断機能を装備しています。
パワーアシストシステムに故障や異常があれば、異常表示または異常点滅をして異常をお知らせします。
異常表示・異常点滅の種類や対処方法については**「ディスプレイ AD に異常が表示・点滅される」（72 ページ）**をご参照ください。

⚠警 告

異常表示がおきたときには、すみやかに対処方法をご実施ください。対処方法を実施してもなお同じ症状がでる場合は、ご使用を止め、販売店で点検・整備をお受けください。

ディスプレイ AD の向きの調整



取付ボルトをゆるめてから、向きを調整してください。
調整後、取付ボルトを締め付けます。

注 意

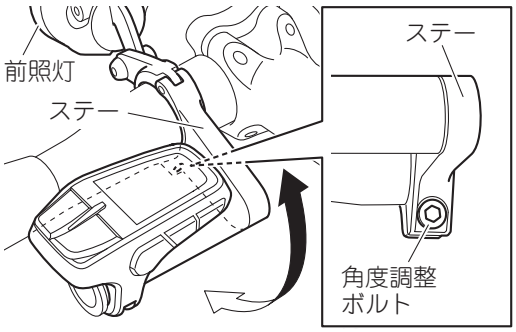
ご自身での調整作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。

要　点

調整作業には工具が必要です。

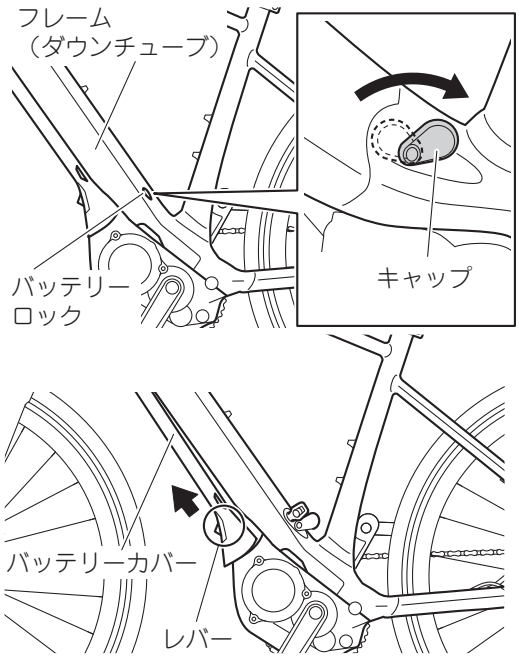
取付ボルト締め付けトルク：
0.8N·m（0.08kgf·m）

ディスプレイ AD のステー角度調整



角度調整ボルトをゆるめると、ディスプレイ AD のステー角度を調整することができます。
ステーの角度調整をすると、前照灯の角度も変わるため、ステーの角度調整が必要な場合は販売店にご相談ください。

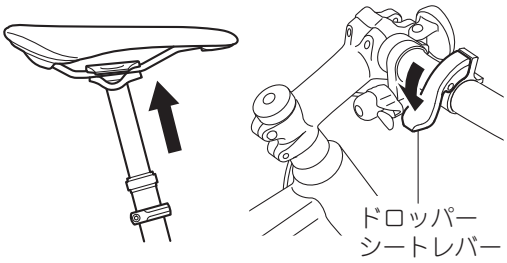
バッテリーロック



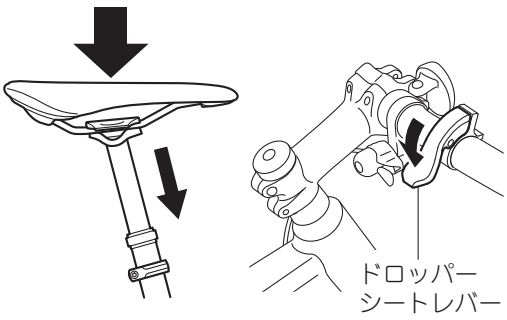
この YPJ は、ダウンチューブ部にバッテリーロックを装備しています。バッテリーロックは、バッテリーの脱着に使用します。
バッテリーロックを開錠するときは、キャップを開け、キーを回し、バッテリーカバーのレバーを引いて、バッテリーカバーを開けます。
バッテリーの脱着については**「充電のしかた」（41 ページ）**をご参照ください。

ドロッパーシートレバー

この YPJ は、ハンドルの右側にドロッパーシートレバーを装備しています。

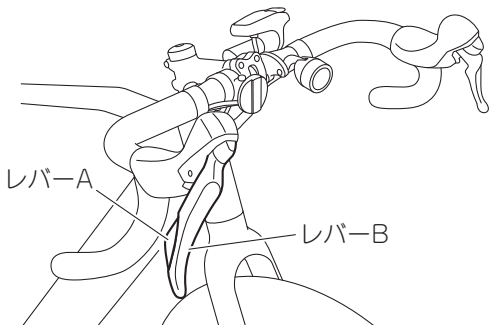


乗車した状態でサドルの上げ下げの操作を行えます。
サドルを上げるときは、腰を浮かせた状態でドロッパーシートレバーを押します。



サドルを下げるときは、サドルに体重をかけながらドロッパーシートレバーを押します。

変速レバー



この YPJ は、右側のブレーキレバー部に変速レバーを装備しています。変速レバーを操作するときは、ペダルを踏む力を抜いて空転気味に軽く回しながら、1 速ずつ操作してください。

右側のレバー A を内側に押すごとに、後ギアがシフトアップ（大ギアから小ギアへ変速）します。
（1 速→ 2 速→ …… → 9 速→ 11 速）
右側のレバー B を内側に押すごとに、後ギアがシフトダウン（小ギアから大ギアへ変速）します。
（11 速→ 9 速→ …… → 2 速→ 1 速）

⚠警 告

- **変速の操作は、周囲の安全を充分にご確認の上、行ってください。**
- **一度に 2 速以上変速しないでください。チェーンが外れたりペダルの回転数が急激に変化するため、ペダルを踏み外してけがをするおそれがあります。**
- **シフトアップとシフトダウンを急激に繰り返す変速の操作をしないでください。チェーンがギアに斜めにくい込んだり、チェーンが外れるため、ペダルを踏み外してけがをするおそれがあります。**

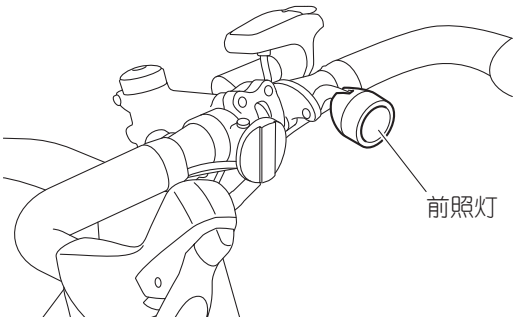
注 意

- **ペダルを強く踏み込みながら変速の操作をしないでください。無理に変速を行うと、異音がしたり変速機が故障するおそれがあります。**
- **停車時や空走でペダルを止めている状態や、ペダルを逆回転させた状態で変速の操作をしないでください。変速機が故障するおそれがあります。**

要　点

- 変速操作に慣れるまで充分練習してください。
- 上り坂を走行する際は、坂の手前で変速してください。

前照灯



この YPJ は、バッテリーを電源とした前照灯を装備しています。

注 意

取付角度を左右に調整することはできません。無理に曲げたりして調整しないでください。破損の原因となります。

要　点

前照灯の取付角度は水平より下向き、かつ 10m 前方の道路を照らすように調整してください。前照灯が水平または水平より上向きになっていると、歩行者や対向車が眩しく感じます。取付角度を上下に調整する必要がある場合は、販売店にご相談ください。

ハンドルブラケット

この YPJ は、ハンドルブラケットの取り付け位置を変えて、ハンドルの取り付け高さを調整することができます。

⚠警 告

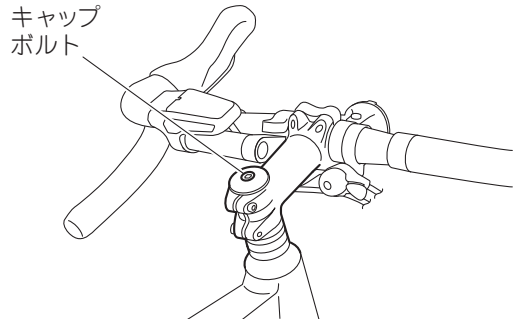
- **ご自身での調整作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。**
- **安全な場所で、車両を停車させて行ってください。**
- **乗車前に組み付け状態を点検してください。がたつきや異常があるときは転倒や衝突するおそれがあります。使用を中止し、販売店で点検をお受けください。**

要　点

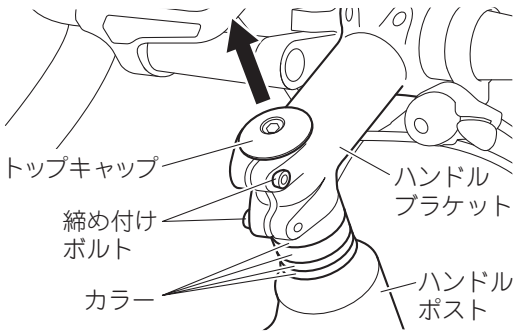
ハンドルの取り付け高さの調整には工具が必要です。

ハンドルの取り付け高さ調整

ハンドルの取り付け高さは調整できます。



1 キャップボルトを取り外します



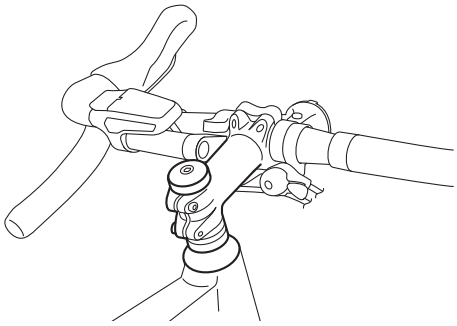
2 ハンドルブラケットの締め付けボルト 2 本をゆるめます

ハンドルを付けたまま、トップキャップ、ハンドルブラケットをハンドルポストから取り外し、カラーの組み付け位置を変更してハンドルブラケットの高さを調整します。

要　点

カラーは厚さが異なります。

3 ハンドルブラケット、カラーとトップキャップをハンドルポストに組み付けます

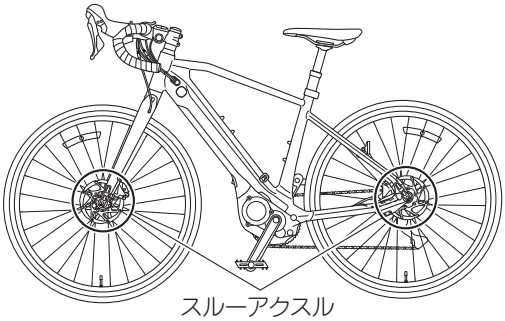


4 キャップボルトを締め付けます

キャップボルト締め付けトルク：
2.5N·m（0.25kgf·m）

5 ハンドルと前輪の角度が直角になるように位置を決めて、ハンドルブラケットの締め付けボルトを締め付けます

ハンドルブラケット締め付けトルク：
6N·m（0.6kgf·m）


スルーアクスル

スルーアクスル

このYPJは、前後輪にスルーアクスルを装備しています。スルーアクスルは、工具を使用せずに車輪の取り外しおよび取り付けができます。

⚠警 告

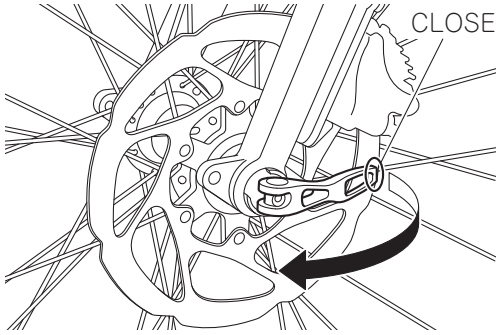
- **ご自身での取り付けおよび取り外し作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。**
- **取り扱いに不明な点があれば、販売店にご相談ください。**
- **車輪を正しく取り付けてください。正しく取り付けられていない場合、走行中に車輪が外れ、転倒によるけがのおそれがあります。**
- **安全な場所で、車両を停車させて行ってください。**
- **乗車前に組み付け状態を点検してください。がたつきや異常があるときは使用を中止し、販売店で点検をお受けください。**
- **公共の場所（駐輪場など）に駐輪した後は、いたずらをされていないか確認してください。**
- **レバーは左側にセットしてください。**
- **レバーが車体に干渉しないようにしてください。**

注 意

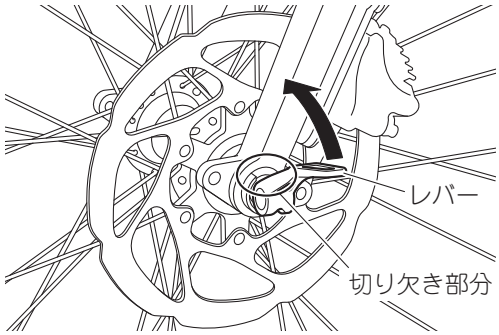
レバーの操作は、必ず手で行ってください。ハンマーなどを使用すると、レバーが破損するおそれがあります。

車輪の取り外しかた

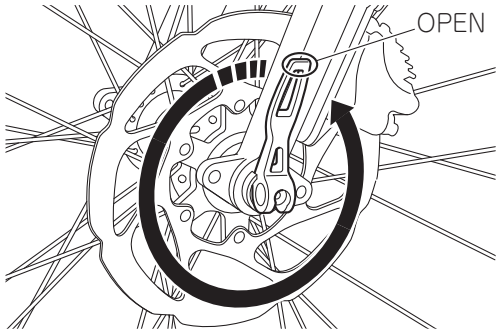
前輪の取り外しかたを例に説明します。後輪の取り外しについては、販売店にご相談ください。



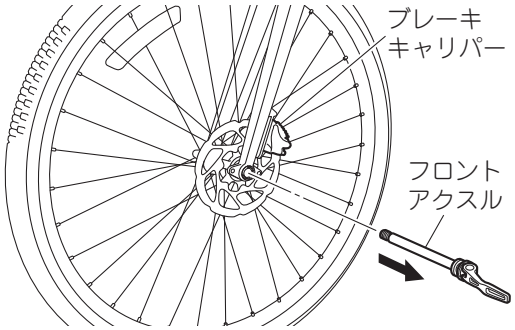
1 レバーをCLOSEの位置からOPENの位置に操作します



2 レバーの根本が切り欠き部分に掛かるように倒します



3 切り欠き部分にレバーを引っ掛けた状態で反時計回りに回し、徐々にゆるめます



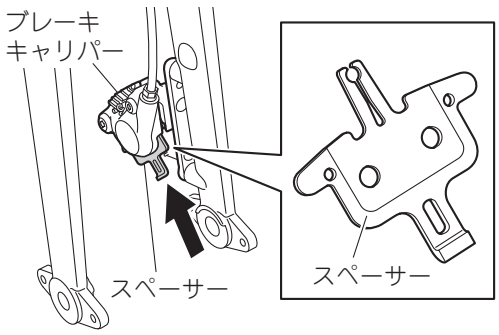
4 フロントアクスルを車体の左側へ抜いて取り外します

5 車輪を取り外します

車体が倒れないように注意して取り外してください。

注 意

車輪を取り外した状態で、ブレーキレバーを握らないでください。ブレーキパッドが出てきて、車輪の取り付けが困難になります。

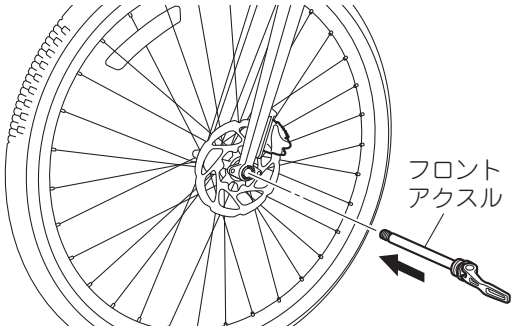


要　点

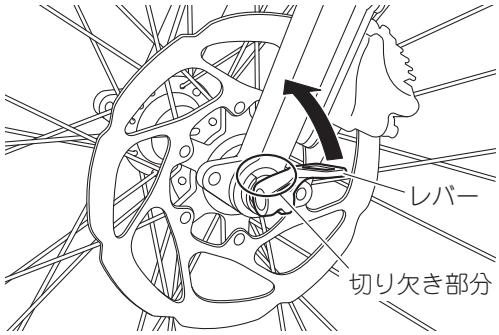
スペーサーをブレーキパッドの間にはさむことで、ブレーキパッドの密着を防ぐことができます。

車輪の組み付けかた

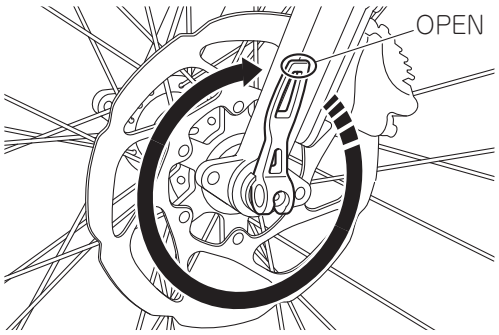
前輪の組み付けかたを例に説明します。後輪の組み付けについては、販売店にご相談ください。



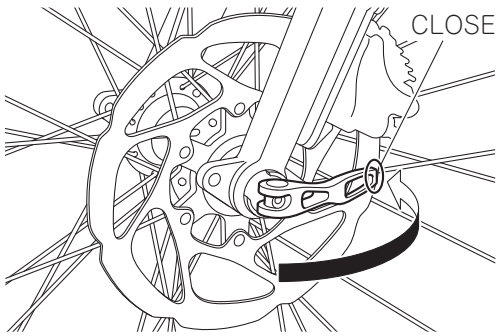
1 車輪を左右フォークの間に組み付け、車体の左側よりフォークエンドの穴にフロントアクスルを組み付けます



2 レバーの根本が切り欠き部分に掛かるように倒します



3 切り欠き部分にレバーを引っ掛けた状態で時計回りに回し、徐々に締め込みます



4 レバーを起こし、レバーが周囲の部品に接触しないようにして CLOSE 位置になる方向に倒し、固定します

要　点

レバーを簡単に CLOSE 位置に操作できる場合、もしくは固定力が強すぎてCLOSE位置に操作することができない場合、再度、レバーを回し、ゆるめたり締め付けたりして確実に固定できるようにセットしてください。

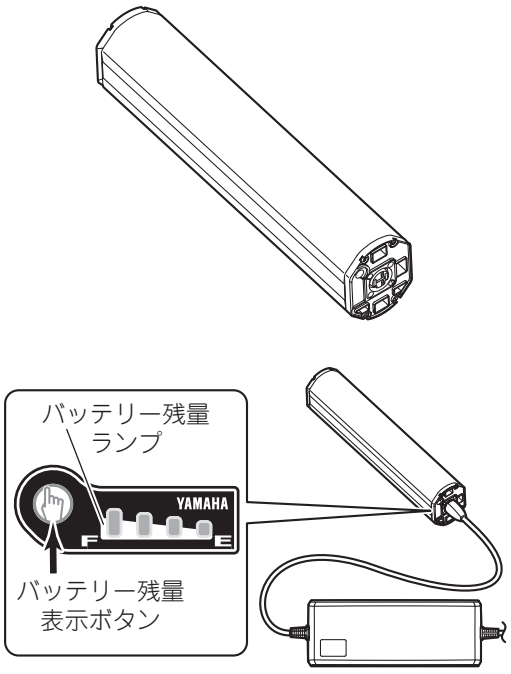
5 ブレーキが正常に作動するか確認します

前ブレーキレバーを 10 回程度握り、ポンピングを行ってください。

⚠警 告

ブレーキの作動に異常がある場合は、販売店にご相談ください。

4 章 バッテリーの充電



YPJ のバッテリー

YPJ はリチウムイオンバッテリーを装備しています。
リチウムイオンバッテリーは軽量で電池容量に優れたバッテリーですが、以下の特性があります。

- 過度に暑い環境／寒い環境で性能が低下する。
- 使用していなくてもわずかずつ放電する。
- バッテリー残量にかかわらず充電できる。

特性については**「バッテリーの特性」（74 ページ）**をご参照ください。

また、YPJ のバッテリーはコンピューターを内蔵しており、バッテリー残量の目安や異常の発生をバッテリー残量ランプでお知らせします。
バッテリー残量は、バッテリー残量表示ボタンを押すことで約 5 秒間点灯してお知らせします。
バッテリー残量の目安については**「バッテリー残量ランプの表示とバッテリー残量の目安」（57 ページ）**をご参照ください。異常点滅については**「バッテリー残量ランプが異常点滅する」（73 ページ）**をご参照ください。

充電に適した環境

過度に暑い場所や寒い場所では正しく充電できないことがあります。以下の充電に適した環境で行ってください。

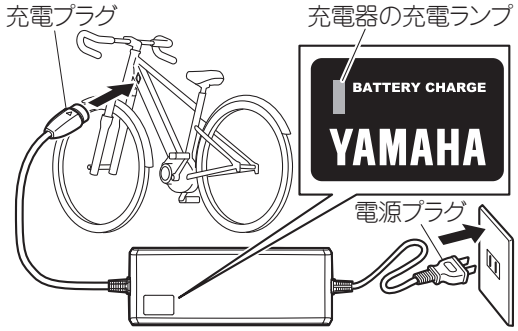
- 温度が 15 ～ 25 ℃の室内
- 雨や水にぬれないところ
- 直射日光に当たらないところ
- 風通しがよく湿気がないところ
- 平坦で安定するところ
- 幼児やペットが触れられないところ

要　点

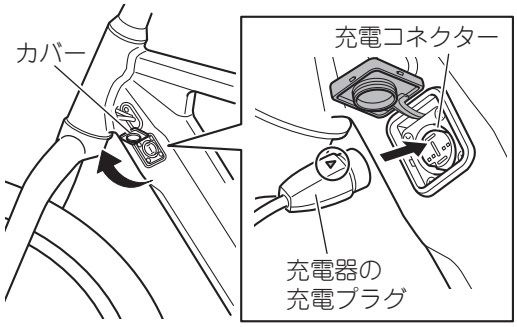
テレビやラジオにノイズが発生する場合は、場所を移動して充電を行ってください。

充電のしかた

バッテリーを自転車に取り付けた状態で充電する場合



1 **電源プラグを家庭用コンセント（AC100V）に接続します**



2 **車体の充電口のカバーを開け、充電コネクターに充電器の充電プラグを接続します**

充電プラグの▲マークが上になるように接続します。
確実に接続されると自動的に充電を始めます。

注 意

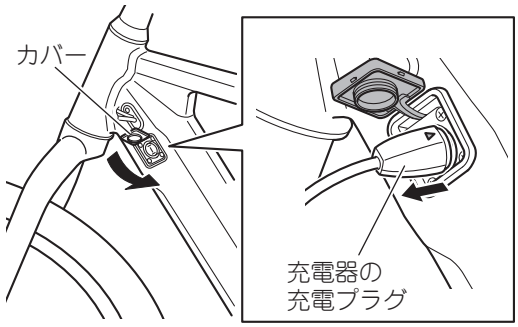
- **充電器の充電プラグと充電コネクターは、水にぬれていないことを確認した上で接続してください。故障の原因になります。**
- **充電プラグに過大な力を加えないでください。**
  また、充電プラグを接続した状態で無理に引っ張らないでください。
- **充電プラグを接続した状態でペダルを回さないでください。充電プラグと充電コネクターが損傷するおそれがあります。**

3 **充電状態を充電器の充電ランプもしくはディスプレイ AD のバッテリー残量で確認します**

充電状態は**「充電の確認」（47 ページ）**、**「ディスプレイ AD」（28 ページ）**をご参照ください。

⚠警 告

充電中に異音や異臭がしたり煙がでるなど異常に気づいたら、すぐに充電器の電源プラグを抜き、バッテリーを取り外してください。



4 充電の完了を確かめ、充電プラグを充電コネクターから取り外します

充電が完了すると、充電器の充電ランプが消灯します。
充電プラグの先端部をしっかりとつまみ、まっすぐに引き抜きます。

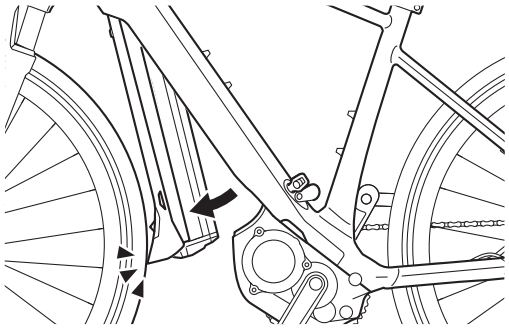
注 意

充電プラグのコードを引っ張って取り外さないでください。無理に引き抜くと充電プラグと充電コネクターが損傷するおそれがあります。

5 車体の充電口のカバーを閉じます

6 電源プラグを家庭用コンセント（AC100V）から抜きます

バッテリーを自転車から取り外した状態で充電する場合



注 意

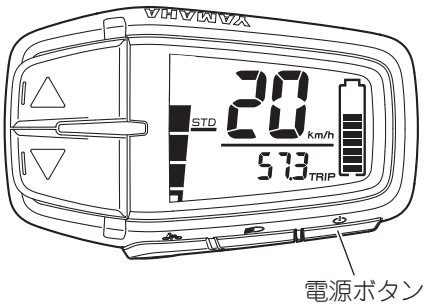
バッテリーの取り外し・取り付け作業を行う前に以下にご注意ください。

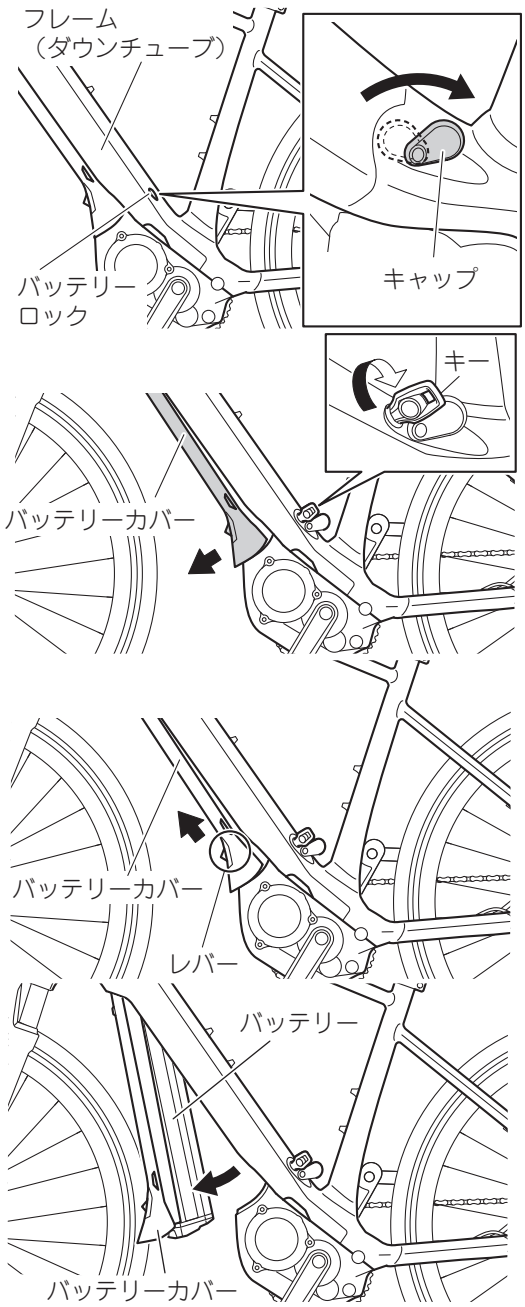
- **平らな場所で車両を立てて作業をしてください。**
- **バッテリーの取り外しと取り付けを安全に行うために、ハンドルを軽く左右どちらかに切ってください。**
  ハンドルがまっすぐだと、バッテリーカバーを開けたとき、前輪タイヤに当たる場合があります。バッテリーカバーが充分に開かないため、バッテリーを取り出すのが難しくなります。

要　点

ご自身での作業に自信のない方は、販売店にご相談ください。

1 ディスプレイ AD の電源ボタンを押し、電源を切ります



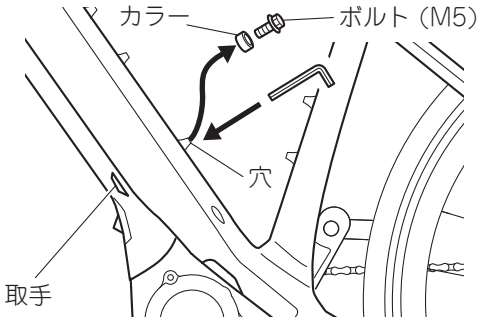


2 バッテリーカバーを開けます

キャップを開けます。

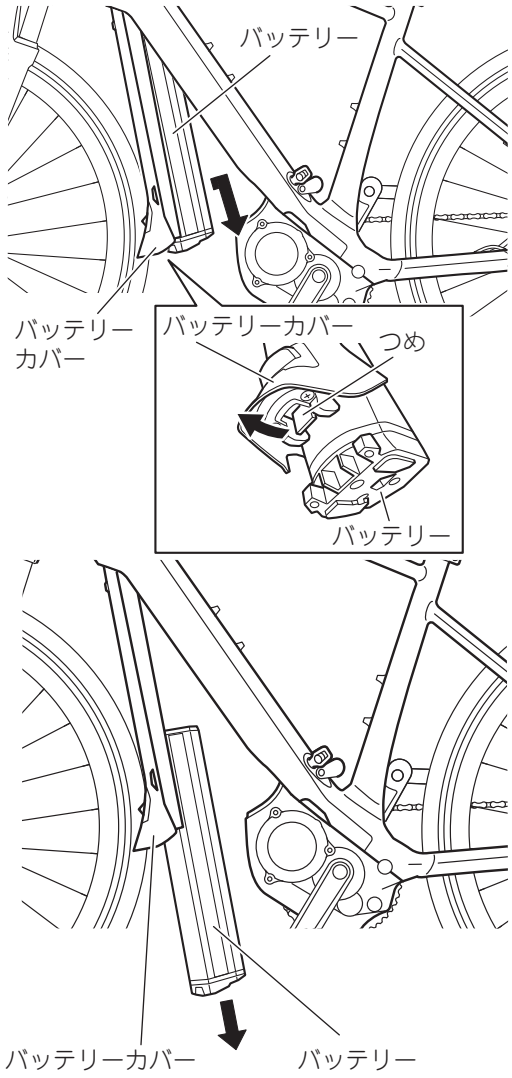
キーを差し込み、時計方向に回すと、バッテリーカバーが少し開きます。

バッテリーカバーのレバーを引いて、ゆっくりとバッテリーカバーを開けます。



要　点

- バッテリーカバーが開かない場合は、取手を持ち、バッテリーカバーを引いてください。
- ダウンチューブ上に M5 ボルトの座を追加しています。ここは、バッテリーカバーが開かない場合に使用します。
  バッテリーカバーの取手を持って引いても開かない場合は、図のようにボルト（M5）とカラーを外し、穴に先のとがっていない棒（3mm の六角レンチなど）を入れて押し、バッテリーカバーを開けてください。
  作業のあとは、必ずボルト（M5）とカラーを締めてください。



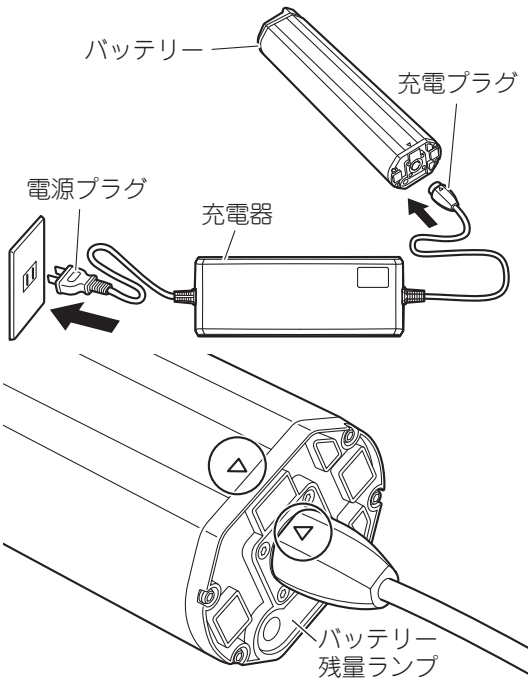
3 バッテリーカバーのつめを外して、バッテリーをバッテリーカバーから取り外します

バッテリーカバーのつめを引くとバッテリーが下に少し落ちます。

バッテリーを持ち上げて外すようにして、バッテリーカバーからバッテリーをゆっくりと引き出します。

⚠警 告

バッテリーを取り外す際は、バッテリーを落とさないよう両手で支えてください。



4 電源プラグを家庭用コンセント（AC100V）に接続します

5 バッテリーの充電コネクターに充電器の充電プラグを接続します

バッテリーの▲マークと充電プラグの▲マークの位置が合うように接続します。

確実に接続されると自動的に充電を始めます。

注 意

- **充電器の充電プラグとバッテリーの充電コネクターは、水にぬれていないことを確認した上で接続してください。故障の原因になります。**
- **充電プラグに過大な力を加えないでください。**
  また、充電プラグをバッテリーに接続した状態で無理に引っ張らないでください。

6 **充電状態を充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプで確認します**

充電状態は「**充電の確認**」(**47 ページ**)をご参照ください。

⚠警 告

充電中に異音や異臭がしたり煙がでるなど異常に気づいたら、すぐに充電器の電源プラグを抜き、バッテリーを取り外してください。

7 **充電の完了を確かめ、充電プラグをバッテリーから取り外します**

充電が完了すると、充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプが消灯します。

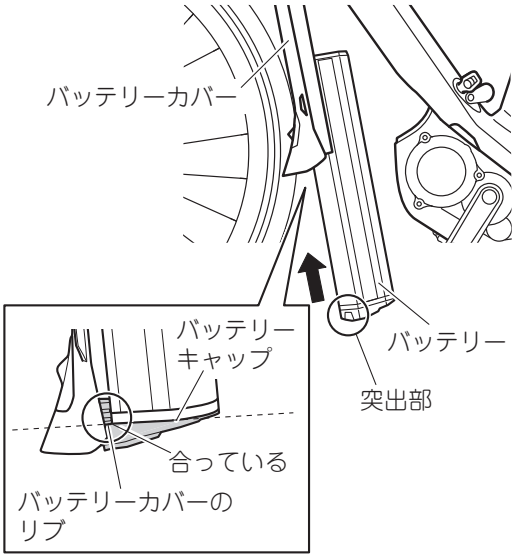
充電プラグの先端部をしっかりとつまみ、まっすぐに引き抜きます。

注 意

充電プラグのコードを引っ張って取り外さないでください。無理に引き抜くと充電プラグと充電コネクターが損傷するおそれがあります。

8 **電源プラグを家庭用コンセント(AC100V)から抜きます**

9 **バッテリーを自転車に取り付けます**



⚠警 告

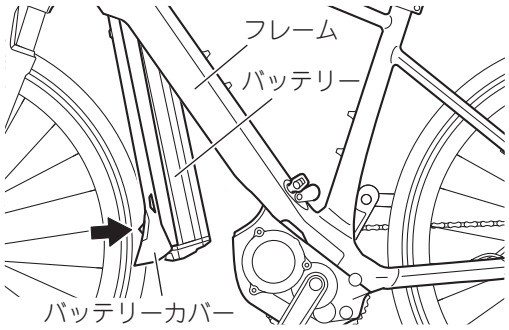
バッテリーを装着する前に、バッテリーと車体の接続部や充電コネクター部に異物が付着していないか、水にぬれていないか確認してください。発熱、煙、火災などの原因になります。

バッテリーの突出部が車両前方向になるように、ゆっくりと慎重にバッテリーをバッテリーカバーにスライドさせ、バッテリーが確実に固定されるまで押し込みます。

図のようにバッテリーカバーのリブ先端とバッテリーキャップの位置が合っていることを確認します。

⚠警 告

- **バッテリーがバッテリーカバーに確実に固定されていることを確認してください。**
- **バッテリーを取り付けるときに、指などをはさまないようにしてください。**



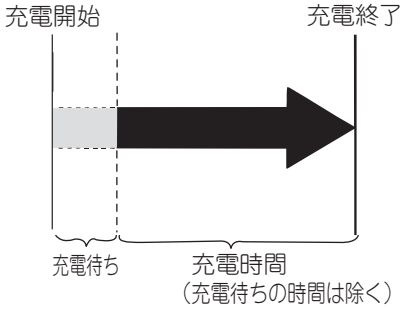
10バッテリーカバーを閉じます

カチッと音がするまでバッテリーカバーを車体側に押して固定します。

装着後、バッテリーカバーを下に引き確実に固定されていることを確認して、キーを抜き取ります。

⚠警 告

カチッと音がするまでバッテリーが確実に装着されていないと、バッテリーが落下するおそれがあります。



充電時間

バッテリーを残量ランプの 1 灯点滅まで使用したとき、満充電までの充電時間はおおよそ以下のとおりです。

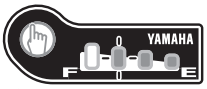
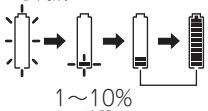
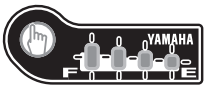
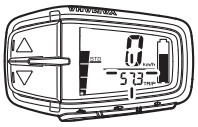
充電時間：
約 3 時間 30 分

要　点

- 充電時間は、バッテリー内部の温度によって異なります。
- 長期放置したバッテリーを充電した場合、電池の状態により充電時間が延びることがあります。
- 充電時間の目安には、充電待ち時間（バッテリー内部温度が充電できる温度に下がるまでの時間）は含まれていません。充電待ちについては**「充電の確認」（47 ページ）**をご参照ください。

充電の確認

充電の状態は、充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプで確認します。
バッテリーを自転車に取り付けた状態で充電する場合は充電器の充電ランプとディスプレイ AD のバッテリー残量で確認します。

充電ランプの表示	バッテリー残量ランプの表示	ディスプレイ AD の表示	充電の状態	状態
BATTERY CHARGE YAMAHA 点灯	 （例：バッテリー残量が 50 ～ 74% の場合）	0% <0.2 秒間隔> 11～99%  1～10% <0.5 秒間隔>	充電中	正常に充電しているときは、充電器の充電ランプは点灯します。バッテリーのバッテリー残量ランプは現在の残量分の一番左側のランプが点滅します。 充電が進むと、バッテリーのバッテリー残量ランプが 1 灯ずつ増え、それに伴い点滅するランプも左側に移動します。 また、ディスプレイ AD のバッテリー残量メーターがゆっくりと増えていきます。
	 消灯		充電終了	充電が完了すると、充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプは消灯します。また、ディスプレイ AD のバッテリー残量メーターは満充電表示されます。
BATTERY CHARGE YAMAHA 消灯	 4 灯同時点滅	 機能表示点滅	充電待ち	バッテリーの内部が高温のとき、またはバッテリーが過度に冷えているときは、充電器の充電ランプが消灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプ全てとディスプレイ AD の全ての機能表示が点滅して、充電待ちの状態をお知らせします。バッテリー内部温度が充電に適した温度になると充電が開始されます。

要　点

- 充電待ちになったバッテリーが充電できる温度に下がるまで、室内の温度が高いほど時間を要します。室内の温度が 30 ℃の場合、約 5 時間必要になる場合があります。
- 正常に充電を開始しても、充電途中でバッテリー内部が規定の温度を超えたとき、バッテリー保護のために自動的に充電を中断します。この場合、充分に充電されないことがありますので、しばらくバッテリーを冷ました後、充電に適した環境で再度充電してください。

乗車前点検

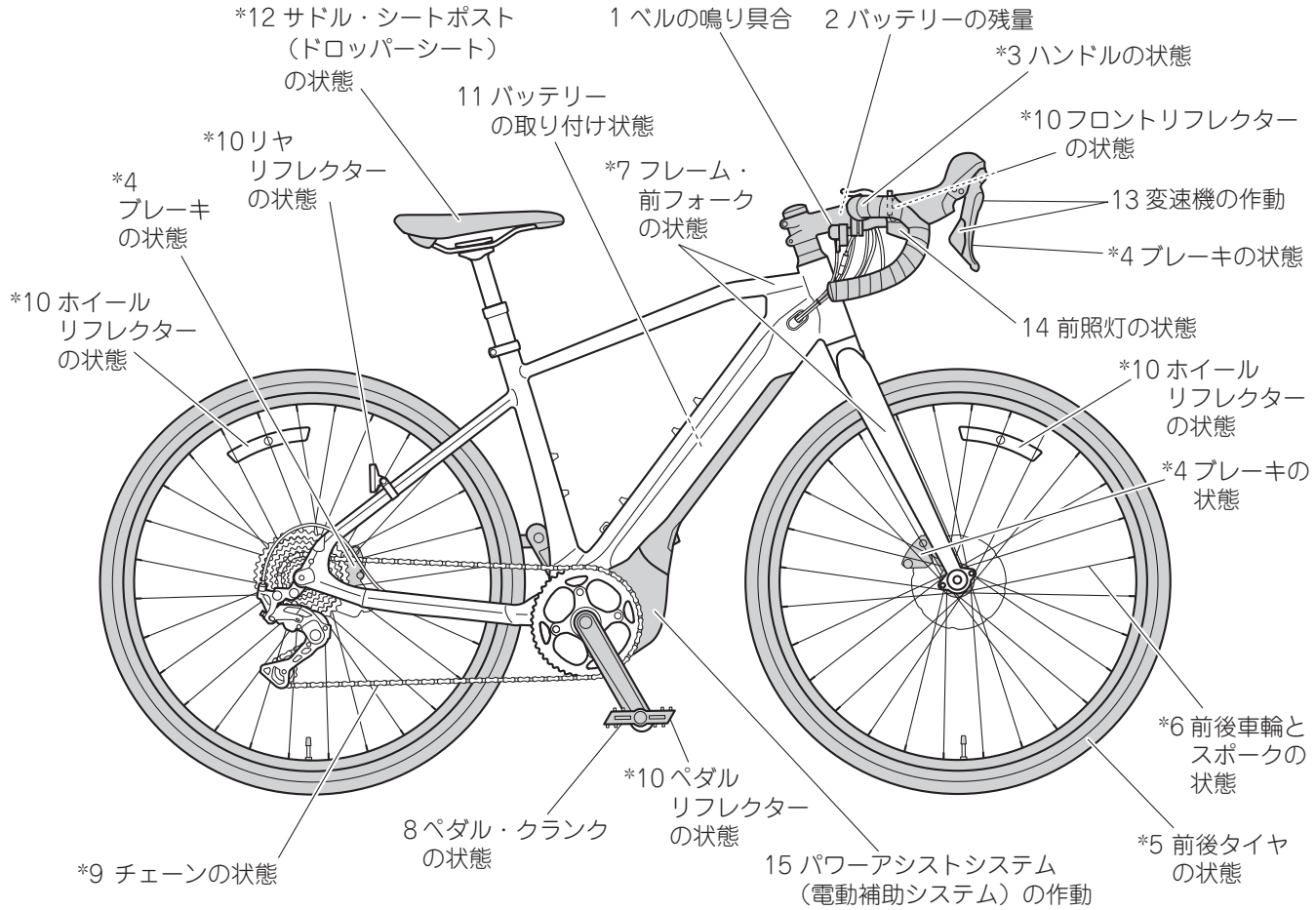
⚠警 告

乗車前点検を、必ず実施してください。
異常が認められた場合は、すぐに販売店で点検・整備をお受けください。異常のまま使用すると、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
また、わからないことや難しいと感じたときは販売店にご相談ください。

注 意

パワーアシスト（電動補助）機構は精密部品で構成されていますので分解しないでください。

乗車前点検は、ディスプレイ AD の電源を切った状態で行ってください。
バッテリーの残量、前照灯の状態およびパワーアシストシステム（電動補助システム）の作動の点検は、電源を入れて行ってください。



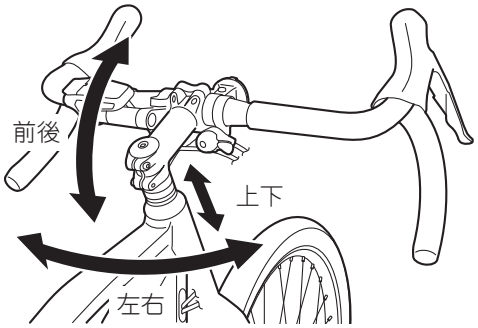
注）“＊” の項目については、点検の詳細を記述しています。

番号	点検項目	点検内容
1	ベルの鳴り具合	• ベルが鳴るか
2	バッテリーの残量	• バッテリーの残量が充分にあるか

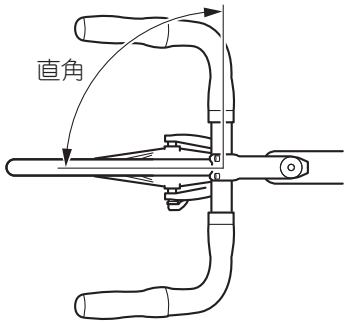
番号	点検項目	点検内容
*3	ハンドルの状態	• がたつきがないか • 直角に固定されているか • バーテープにゆるみや破れがないか
*4	ブレーキの状態	• レバーとバーテープとの間、約 1/2 でブレーキが効くか • ブレーキレバーがずれたり動いたりしないか • ブレーキパッドがローターに当たったままになっていないか • ローターの厚さは充分か • ブレーキパッドの厚さは充分か • ブレーキ液の漏れ・にじみがないか • ブレーキの取り付け部にゆるみやがたつきがないか
*5	前後タイヤの状態	• 空気圧は適正か • 摩耗していないか • 異物やくぎなどが刺さっていないか
*6	前後車輪とスポークの状態	• ゆるみやがたつき、ふれがないか • スポークの折れ、ゆがみ、変形はないか
*7	フレーム・前フォークの状態	• 変形、亀裂、膨れなどの異常がないか
8	ペダル・クランクの状態	• ゆるみやがたつきがないか • スムーズに回転するか • 変形、ひび割れはないか
*9	チェーンの状態	• 滑らかに動くか • 異物や小石などがはさまってないか
*10	フロントリフレクター・ホイールリフレクター・ペダルリフレクター・リヤリフレクターの状態	• 汚れ、破損がないか
11	バッテリーの取り付け状態	• 確実に固定されているか
*12	サドル・シートポスト（ドロッパーシート）の状態	• 引き上げ限界線が見えていないか • シートバンドにゆるみがないか • ずれたり回転しないか • サドル上面がほぼ水平に固定されているか • シートポストに傷つき、へこみ、亀裂などの異常がないか • サドルの取り付けにゆるみ、がたつきがないか • ドロッパーシートレバーを操作させない状態でサドル座面へ荷重を加えたときサドルが下がらないか
13	変速機の作動	• スムーズに変速するか
14	前照灯の状態	• 光軸中心が 10m 前方を照らしているか • 前照灯の取り付けにゆるみ、がたつきがないか
15	パワーアシストシステム（電動補助システム）の作動	• 発進時にパワーアシストシステムが作動するか

点検の詳細

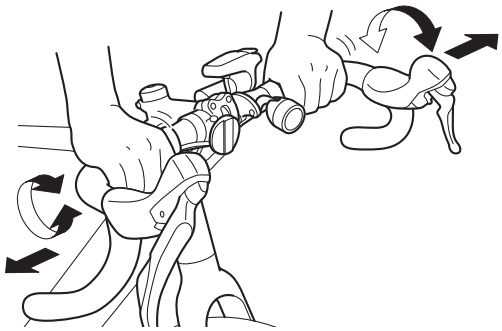
***3 ハンドルの点検**



- ハンドルを前後／左右／上下の方向に動かし、がたつきがないかを点検します。

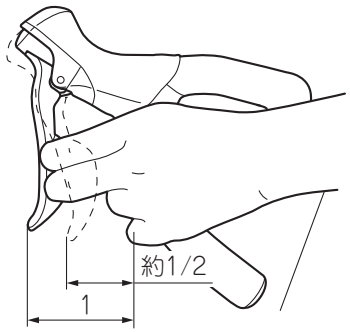


- ハンドルが前輪に対して直角に固定されているかを点検します。

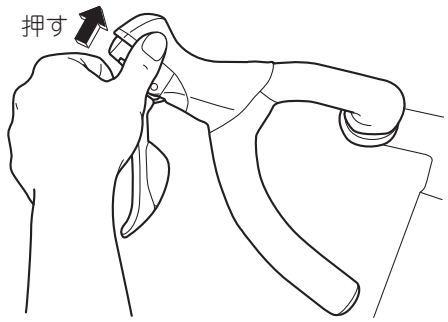


- バーテープに力を入れて回しても、回ったりしないか、また、バーテープが破れていないかを点検します。

***4 ブレーキの点検**



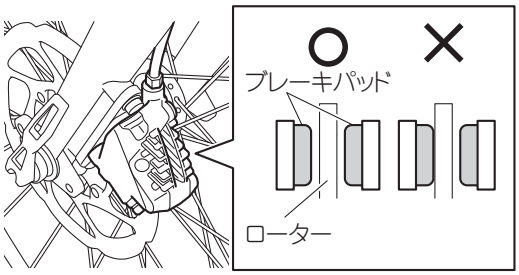
- ブレーキレバーを握ったときに、レバーとバーテープの隙間が約 1/2 の距離にあるかを点検します。



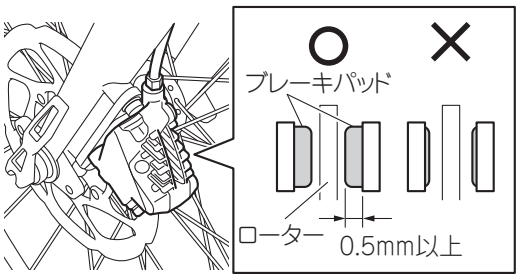
- 前後ブレーキレバーの取り付け部を指で押し、ずれたり動いたりしないかを点検します。



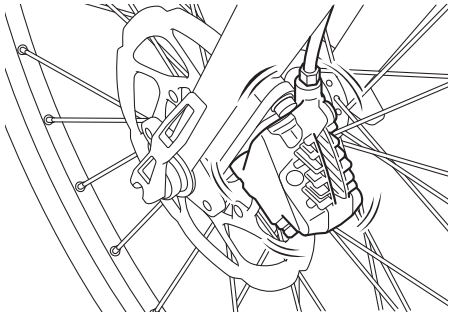
- 前後ブレーキがよく効くか点検します。効きが弱い場合は販売店で点検・調整をお受けください。



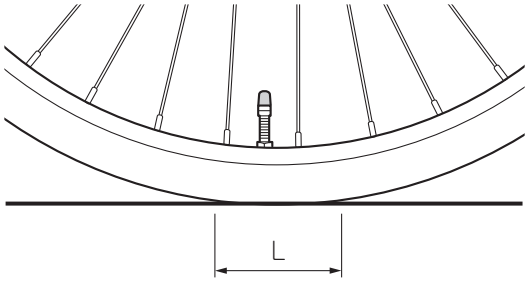
- ブレーキパッドがローターに当たったままになっていないことを点検します。



- ブレーキパッドの厚さが 0.5mm 以上あることを点検します。
- ブレーキ液の漏れ・にじみがないかを点検します。
- ローターの厚さは充分かを点検します。
- ローターの厚さが 1.5mm 以上あるか、片方のアルミ面が露出する程度まで摩耗していないか、ひび・曲がりがないか点検します。



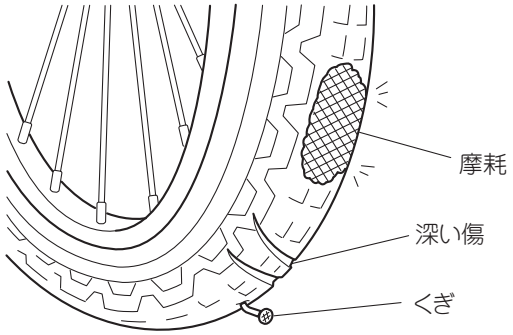
- ブレーキの取り付け部にゆるみ、がたつきがないか点検します。



***5 前後タイヤの点検**

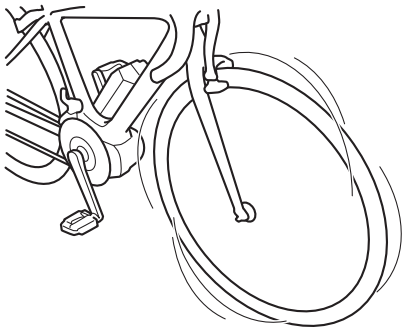
- タイヤの空気圧を点検し、不適正な場合は空気圧を調整してください。
  空気圧は、YPJ に乗車（体重 60kg の方）した状態での接地面の長さで簡易に判定することができます。

適正空気圧 前輪：250 ～ 410kPa （2.5 ～ 4.1kgf/cm^2, 2.5 ～ 4.1bar） 後輪：250 ～ 410kPa （2.5 ～ 4.1kgf/cm^2, 2.5 ～ 4.1bar） 接地面の長さ（L） 前輪：90 ～ 105mm 後輪：100 ～ 115mm

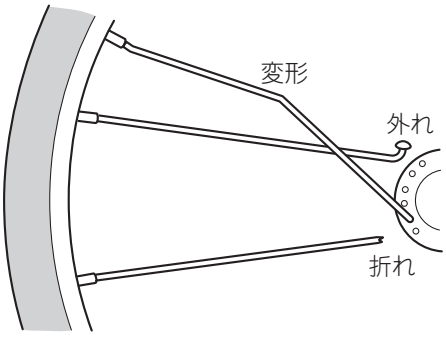


- タイヤが摩耗していないか、深い傷はないか、異物やくぎなどが刺さっていないかを点検します。

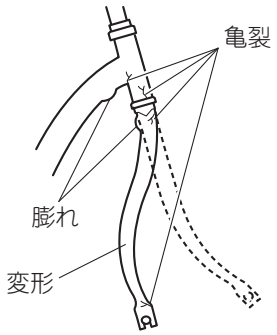
***6 前後車輪とスポークの点検**



- YPJ を持ち上げて車輪を回転させ、前後車輪にゆるみやがたつき、ふれがないかを点検します。

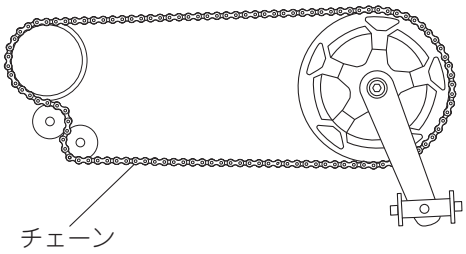


- スポークが折れたり、外れたり、変形していないかを点検します。



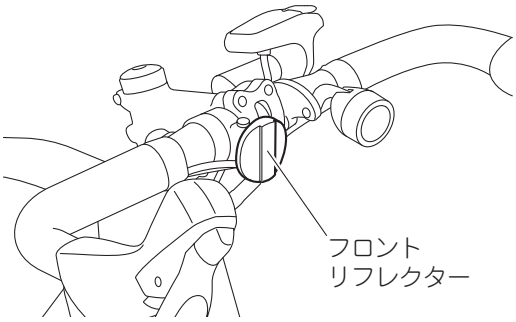
***7 フレームと前フォークの点検**

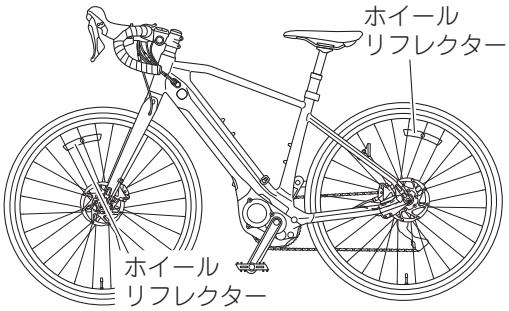
- 変形や亀裂、膨れなどの異常がないかを点検します。

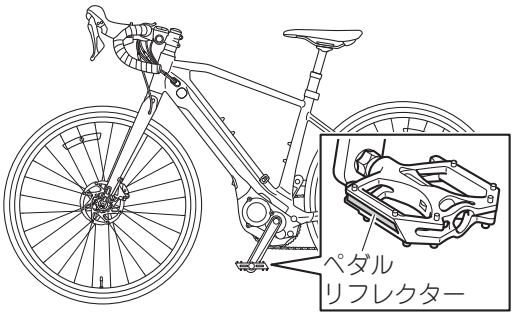


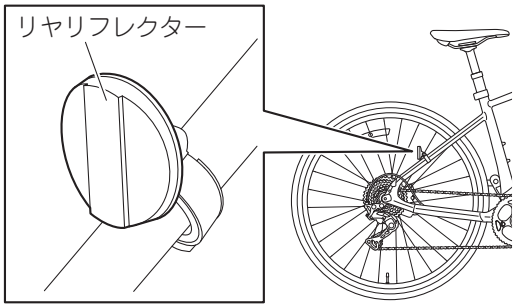
***9 チェーンの点検**

- 油切れがなく、ペダルを手で動かしたときに滑らかに動くか、小石などの異物がはさまっていないかを点検します。



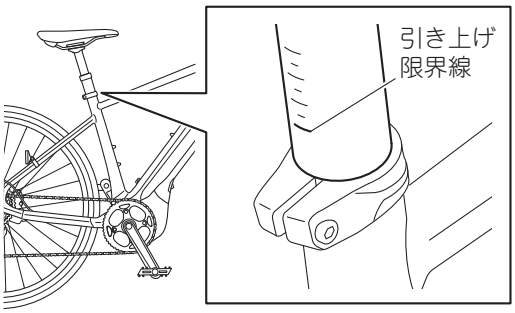






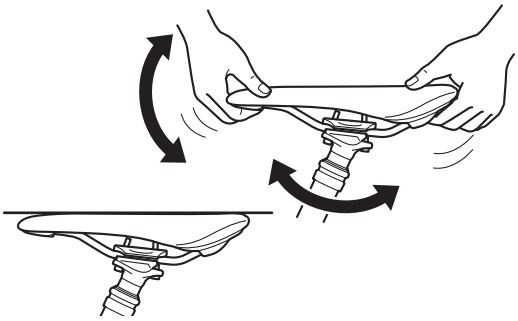
***10 フロントリフレクター・ホイールリフレクター・ペダルリフレクター・リヤリフレクターの点検**

- フロントリフレクター・ホイールリフレクター・ペダルリフレクター・リヤリフレクターに汚れ、破損がないか点検します。

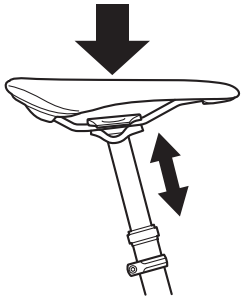


***12 サドル・シートポスト（ドロッパーシート）の状態**

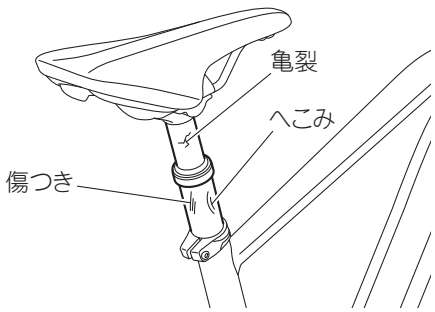
- シートポストにある引き上げ限界線が隠れるまで差し込まれているかを確認します。



- シートバンドにゆるみがないかを確認します。
- サドルの前後を持って図のように動かし、力を入れても回らないことを確認します。
- サドル上面がほぼ水平に固定されていることを確認します。



- ドロッパーシートレバーを作動させない状態でサドル座面へ荷重を加えたときサドルが下がらないかを確認します。



- シートポストに傷つき、へこみ、亀裂などの異常がないかを点検します。

バッテリー残量の確認

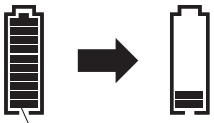
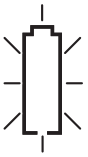
バッテリーにどの程度の残量があるかの目安を確認することができます。確認はディスプレイ AD のバッテリー残量メーターと、バッテリーのバッテリー残量ランプのいずれかで行うことができます。

要　点

バッテリーの残量が 0（ゼロ）になっても普通の自転車として走行することができます。

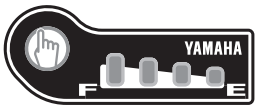
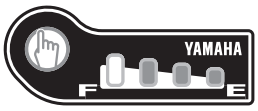
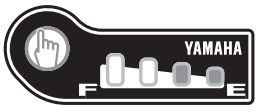
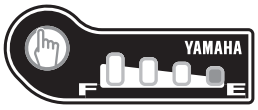
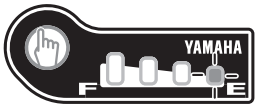
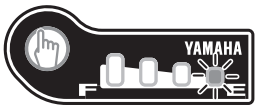
バッテリー残量メーターの表示とバッテリー残量の目安

ディスプレイ AD にバッテリー残量を表示します。

バッテリー残量メーターの表示	バッテリー残量の目安	適応状態
	100 ～ 11%	バッテリー残量が 100% から 11% の間は、バッテリー残量が 10% 減少するごとに、バッテリー残量メーターのセグメントが 1 個ずつ減少していきます。
 遅い点滅 ＜0.5 秒毎＞	10 ～ 1%	バッテリー残量が 10% から 1% の間は、一番下のセグメントが遅い点滅をします。バッテリー残量が残りわずかです。
 速い点滅 ＜0.2 秒毎＞	0%	バッテリー残量が 0（ゼロ）になりました。

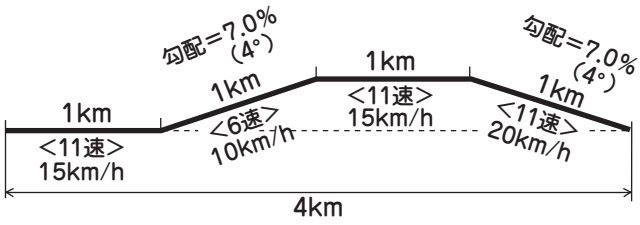
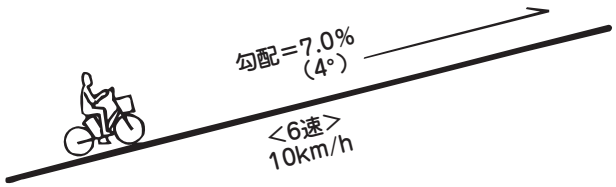
バッテリー残量ランプの表示とバッテリー残量の目安

バッテリーのバッテリー残量ランプは以下のように表示します。
バッテリー残量を確認するときは、残量表示ボタン “☝” を押します。

バッテリー残量ランプの表示	バッテリー残量の目安	適応状態
	100 ～ 75%	満充電（F）から 1 灯ずつ残量ランプが減少していきます。
	74 ～ 50%	
	49 ～ 25%	
	24 ～ 11%	
 1 灯目の遅い点滅 ＜0.5 秒間隔＞	10 ～ 1%	バッテリー残量が残りわずかです。
 1 灯目の速い点滅 ＜0.2 秒間隔＞	0%	バッテリー残量が 0（ゼロ）になりました。

充電あたりの走行できる距離

1 回の充電で走行できる距離の目安は、以下の表のようになります。
なお、走行できる距離は走行モードによっても異なります。

走りかた	走行距離 40km 80km 120km 160km 200km
標準パターン *1 	ハイモード 85km スタンダードモード 101km エコモード 137km プラスエコモード 200km オートマチックアシストモード 96km
4 度登坂連続パターン *2 	ハイモード 30km スタンダードモード 35km エコモード 48km プラスエコモード 75km オートマチックアシストモード 30km

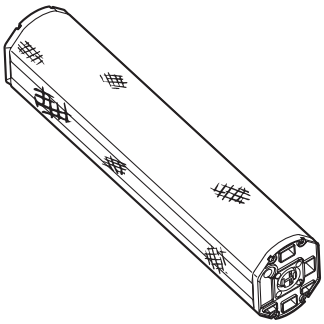
*1 標準パターンとは
勾配 7.0%（4 度）の上り坂を変速位置〈6 速〉で、その他を変速位置〈11 速〉で、連続走行した場合をいいます。
*2 4 度登坂連続パターンとは
勾配 7.0%（4 度）の坂道を変速位置〈6 速〉で、速度 10km/h で連続走行した場合をいいます。

要　点

上記データは、新品バッテリーを常温 15 ～ 25 ℃で使用し、積載重量は 65kg（乗員および荷物を合計した重量）、無風の平滑乾燥路を無灯火（無点灯）で走行したときの弊社データです。

走行距離が短くなる環境や使いかた

- 以下の状況で走行した場合は、走行距離が短くなります。

発進、停止の回数が多い 	急な坂道が多い 	路面の状態が悪い 
積載重量が重い 	向かい風が強い 	気温が低い 
前照灯が点灯している 	バッテリーが劣化している 	

- 整備不良の場合も、走行距離が短くなります。
  走行距離が短くなる整備不良の例：
  ・タイヤの空気圧が低下している
  ・チェーンが滑らかに動かない
  ・常にブレーキが効いている



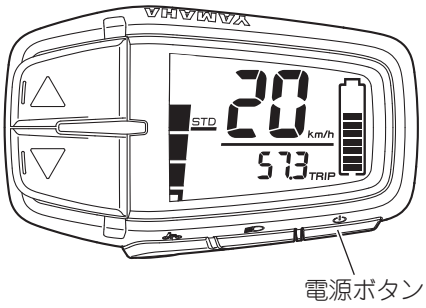
荷物を積載するには

別売アクセサリー品のリヤキャリアの購入や取り付けについては、販売店にご相談ください。

⚠警 告

- **荷物の積みすぎは走行安定性を著しく低下させるおそれがあります。**
- **荷物の積みすぎは車体や部品が破損し、転倒によるけがのおそれがあります。**
- **荷物の大きさ限度を超えて積載すると、はみ出した荷物が歩行者などに接触するおそれがあります。**
- **積載重量限度および荷物の大きさの限度の範囲内であっても、個人差により不安を感じる場合は荷物を減らしてください。**
- **荷物の左右バランスを考慮して積載してください。**
- **荷物を確実に固定してください。**
- **荷物を固定するときにひもやベルトなど使用する場合は、ゆるまないようにしてください。ゆるんだひもやベルトなどが車輪に巻き込まれるおそれがあります。**
- **この YPJ の最大積載重量（乗員の体重と荷物の積載重量の合計）は 90kg です。最大積載重量を超えないようにしてください。**

発進のしかた



1 サドルにまたがります
2 ペダルに足をかけずに、ディスプレイ AD の電源ボタンを押して電源を入れます



3 ペダルをゆっくり踏み込みます

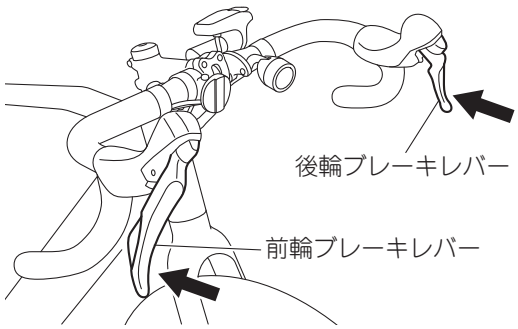
⚠警 告

- **けんけん乗り（片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかた）はしないでください。転倒や接触によるけがのおそれがあります。**
- **自転車を乗り入れても良い公園や広場など安全な場所でよく練習し、パワーアシストの特徴に充分慣れてから一般道路でお乗りください。**

要　点

ペダルに足をかけた状態で後ろにさがろうとすると、パワーアシストシステムが作動して後ろにさがりにくくなります。ペダルから足を降ろして数秒間待ってから後ろにさがってください。

ブレーキのかけかた



ブレーキをかけるときは、必ず前後ブレーキを併用し、後輪ブレーキを先にかけてから前輪ブレーキをかけます。
坂道では、ブレーキを前後ともにかけて安全な速度で走行してください。とくに長い下り坂を前後どちらかのブレーキだけを使って走行すると、ブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。
雨天などでブレーキがぬれているときは、制動距離が長くなります。ブレーキを前後ともにかけてゆとりあるブレーキ操作で安全運転を心がけてください。

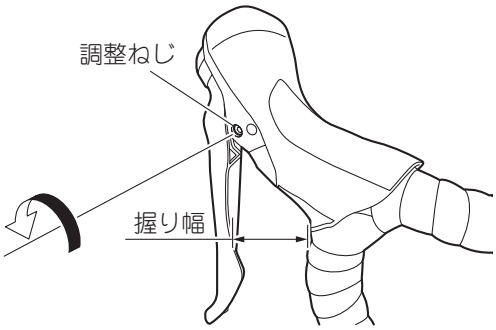
⚠警 告

片側だけのブレーキ操作はしないでください。スリップして転倒によるけがのおそれがあります。

要　点

ブレーキ操作の繰り返しで発生する飛散物により、衣服などに汚れが付着することがあります。ブレーキパッドおよびローターの定期的な清掃を行ってください。
ご自身での清掃作業に自信のない方は、販売店にご依頼ください。

前後ブレーキレバーの位置調整



ブレーキレバーの調整ねじを回すことで、バーテープとブレーキレバーとの握り幅を調整することができます。

要　点

- ブレーキレバーの位置調整には工具が必要です。
- ご自身での調整作業に自信のない方は、販売店にご相談ください。

降車のしかた

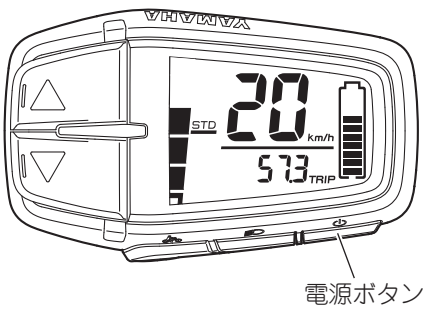


1 **前後ブレーキをかけ、停車します**
完全に停止してから、ブレーキレバーを握ったままゆっくりと降車します。

⚠警 告

走行直後のブレーキ部を触らないでください。ブレーキを頻繁に使用した場合、ブレーキ部が高温になることがあります。

2 **ディスプレイ AD の電源ボタンを押して電源を切ります**



初回点検（2 か月目点検）と定期点検

安全にお乗りいただくために、お買い上げいただいてから 2 か月目の初回点検と、6 か月ごとの定期点検を販売店で実施してください。

初回点検（2 か月目点検）

工場では充分な検査を実施した後に出荷していますが、まれに使用後 1 ～ 2 か月の間にボルトなどのゆるみが生じることがあります。
お買い上げいただいた販売店に保証書／点検・整備の記録をお持ちの上、お買い上げいただいてから 2 か月目に初回点検を受けてください。初回点検（2 か月目点検）は、お買い求めいただいた販売店での実施に限り無料となります。
また、ご使用状況などにより部品交換が必要な場合は有料となることがありますので、あらかじめ販売店にご確認ください。
点検・整備項目については、保証書／点検・整備の記録をご覧ください。

定期点検

いつまでも安全にお乗りいただくため、お買い求めいただいてから 6 か月目以降は、半年ごとに定期点検をお受けください。（定期点検は有料となります。）
定期点検は、お買い求めいただいた販売店に保証書／点検・整備の記録をお持ちの上、お受けください。
消耗した部品や、異常箇所をそのままにしてご使用いただきますと、大変危険です。
また、定期点検を実施いただかない場合は、保証の適用を受けられないことがありますので、あらかじめご了承ください。
点検・整備項目については、保証書／点検・整備の記録をご覧ください。

⚠警 告

定期的に販売店で点検を受けてください。

お手入れのしかた



⚠警 告

ブレーキの制動面などに防錆剤やワックスなどの油脂類を付着させないでください。油脂類が付着するとブレーキが効かなくなり、衝突・けがのおそれがあります。

注 意

- **YPJ は日常防水性を備えていますが、ホース先端をすぼめて圧力のある水を直接かけたり、高圧洗浄機やスチーム洗浄機は使用しないでください。内部に水が入り、故障の原因となることがあります。**
- **タイヤやブレーキパッドなどのゴム類にワックスを付着させないでください。ひび割れの原因となります。**
- **YPJ によってはツヤ消し塗装（マット塗装）が施されています。ツヤ消し（マット塗装）部分のお手入れでは、以下の点にご注意ください。**
  - **・洗車ブラシを使用しないでください。塗装面を傷つけることがあります。**
  - **・ワックスを塗布しないでください。塗装面がくすむなど、外観が変化することがあります。**
  - **・コンパウンドを使用しないでください。表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

金属部のお手入れ

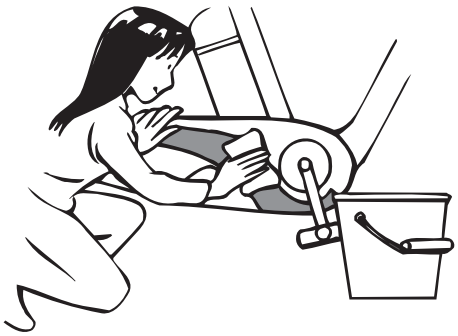
スポークなどの金属部は、防錆剤（ヤマルーブ 180 防錆潤滑剤）を布に吹き付けてふいてください。





フレームなど塗装部のお手入れ

汚れをしっかり取り除いた後、乾いたタオルに少量のワックスを取ってみがいてください。



バッテリーや樹脂カバー類のお手入れ

水を含ませ固く絞ったタオルなどでふき取ってください。

注 意

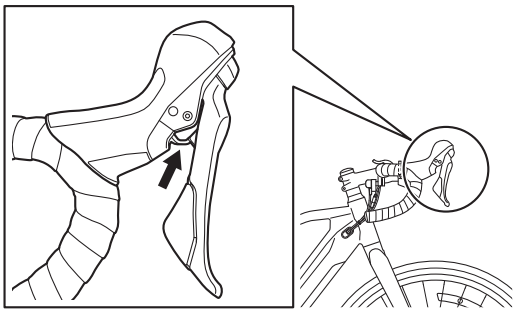
ガソリンや灯油、アルカリ性あるいは強酸性のクリーナー、およびその他の溶剤などを付着させないでください。ひび割れなどの原因になります。

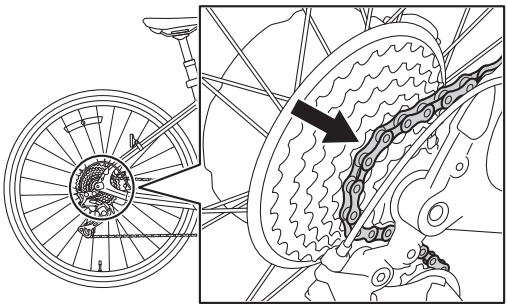
可動部のお手入れ

以下に指定した可動部に少量の機械用油を注油してください。余分な油は乾いた布などでよくふき取ってください。注油する量が多すぎるとほこりを付着させ、故障の原因になることがあります。

左右ブレーキレバーの支点部

左右とも注油してください。



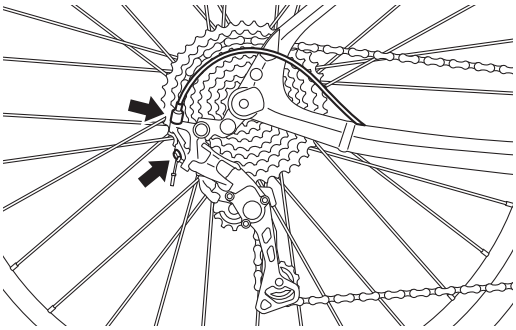


チェーン

タイヤを手で回しながら注油してください。

注 意

- **タイヤを手で回しながら注油するときは、手や衣服が巻き込まれないようにご注意ください。**
- **自転車チェーン専用の油を使用してください。**
- **余分な油は乾いた布などでよくふき取ってください。注油する量が多すぎると走行中に油飛びが発生し、靴や衣類を汚すおそれがあります。**

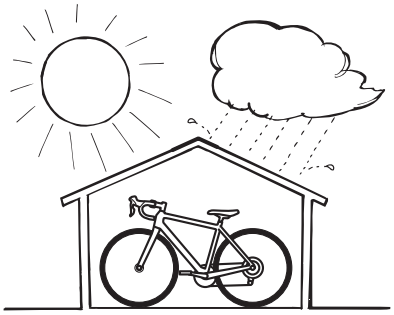


ディレイラー

注油してください。

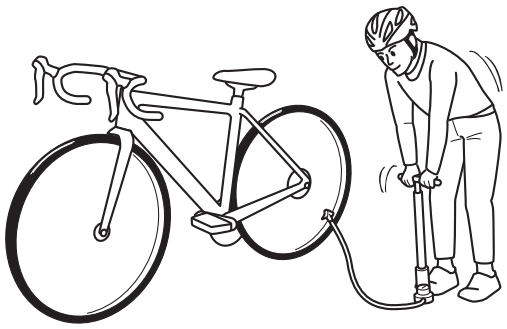
保管のしかた

保管に適した場所



以下の保管に適した場所で保管してください。

- 平坦で安定が良いところ
- 風通しがよく湿気のないところ
- 雨つゆや直射日光が当たらないところ



保管するときは

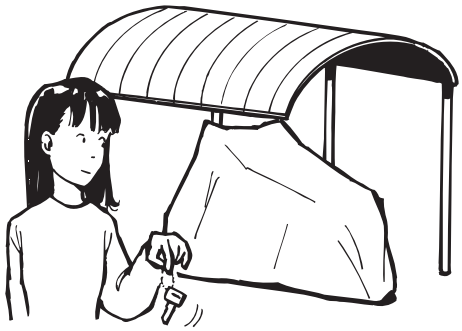
- タイヤの傷みを防ぐために、空気を適正空気圧まで入れてください。

適正空気圧
前輪：250 ～ 410kPa
（2.5 ～ 4.1kgf/cm^2, 2.5 ～ 4.1bar）
後輪：250 ～ 410kPa
（2.5 ～ 4.1kgf/cm^2, 2.5 ～ 4.1bar）

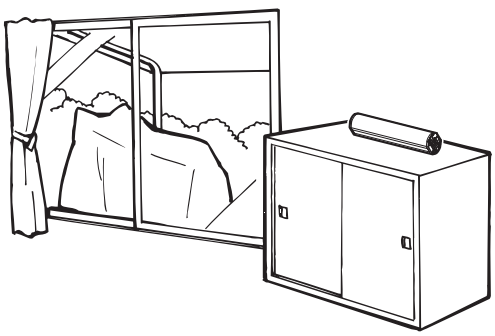
要　点

空気入れは仏式バルブに対応したものを使用してください。

- いたずらや盗難を予防するためにバッテリーを取り外し、ワイヤーロック（別売品）などで施錠してください。ワイヤーロックなどのご購入の際は、販売店にご相談ください。バッテリーの取り外しかたは**「充電のしかた」（41 ページ）**をご参照ください。
- 屋外ではサイクルカバー（別売アクセサリー品）をかけてください。ご購入の際は、販売店にご相談ください。



長期保管（1 か月以上）と長期保管後の再使用



長期保管（1 か月以上）するときは

1 か月以上の長期間にわたり使用しないときは、バッテリーを取り外し、以下の要領で保管してください。

- バッテリー残量を 1 ～ 2 灯の点灯状態にし、屋内の涼しい（15 ～ 25 ℃）、湿気のない場所で保管してください。
- 月に1度はバッテリー残量を確認し、1灯点滅になっているときは 10 分程度充電してバッテリーの残量が著しく低下しないようにしてください。

要　点

- バッテリーは「満充電（F)」または「空（E)」の状態で放置すると劣化が早まります。
- 自己放電により保管時もわずかずつ放電し、バッテリー残量は低下します。

長期保管後に再使用するときは

6 か月以上保管して再び使用する場合は、販売店で点検・整備（有料）をお受けください。
また、使用する前にバッテリーを充電してください。

要　点

バッテリーの状態により、充電時間が延びることがあります。

故障かな？と思ったら

以下の表に従ってお調べいただき、直らない場合は販売店にご相談ください。

ペダルが重い・アシストしない

症状および確認内容	対処方法	ページ
ディスプレイ AD の電源は入っていますか？	電源を入れてください。	28
アシストオフモードになっていませんか？	アシストオフモードの特徴です。アシストは停止しています。 ⇒必要に応じて走行モードを切り替えてください。	29
バッテリーは確実に取り付けられていますか？	充電済のバッテリーを確実に取り付けてください。	41
バッテリー残量メーターは 0（ゼロ）の速い点滅をしていませんか？	バッテリーの残量が 0（ゼロ）です。充電をしてください。	41 56
タイヤの空気圧が低くありませんか？	仏式バルブ対応の自転車用空気入れを使用し、適切な空気圧まで空気を入れてください。	48
ディスプレイ AD の電源が入った状態で、停車したまま 5 分以上ペダルに踏む力をかけない状態が続いていませんか？	自動電源オフ機能が作動しました。再度、電源を入れなおしてください。	3 28
気温が高いところで使用していませんか？ または走行負荷が大きい走りかた（長い坂道や重い荷物を積載）をしていませんか？	バッテリーまたはドライブユニットの温度が上がったための制御で、異常ではありません。温度が下がれば回復します。YPJ への負荷を軽くし、バッテリーやドライブユニットを少し休ませてから再度使用してください。 ⇒通常使用している変速位置よりシフトダウンしてご利用いただくと、症状がでにくくなります。	34
気温が低いところで使用していませんか？	気温が暖かくなると回復します。また、バッテリーを温度が 15 ～ 25 ℃の屋内で保管しておいて使用すると、この症状を軽くすることができます。	—
ディスプレイ AD が異常表示や異常点滅をしていませんか？	**「ディスプレイ AD に異常が表示・点滅される」（72 ページ）**をご参照ください。	72
走行中にディスプレイ AD の表示が全て消灯した。 電源ボタンを押しても電源が入らない。	バッテリーの接続を確認してください。 バッテリーの接続を確認しても症状が改善されない場合は、パワーアシストシステム内部のトラブルが考えられます。 ご使用を止め、販売店で点検・整備をお受けください。	—

9章 もしもこんなときは

走行距離が短い

症状および確認内容	対処方法	ページ
充分に充電が行われていますか？	満充電（F）になるまで充電してください。	47
バッテリーが劣化していませんか？	バッテリーを交換してください。	74
気温が低いところで使用していませんか？	気温が暖かくなると回復します。また、バッテリーを温度が 15 ～ 25 ℃の屋内で保管しておいて使用すると、この症状を軽くすることができます。	59 74

充電できない

症状および確認内容	対処方法	ページ
電源プラグはしっかり接続されていますか？ また、バッテリーは確実に接続されていますか？	もう一度、接続をやりなおして充電してください。	41
充電器の充電ランプは点灯していますか？		
バッテリーのバッテリー残量ランプは点灯していますか？		
充電器の充電プラグとバッテリーの充電コネクターが、汚れていたり、水にぬれていませんか？	充電器の充電プラグとバッテリーの充電コネクターの充電端子を綿棒などで清掃してください。 清掃後、再度充電してください。	41
充電中に、充電器の充電ランプが消灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプが 4 灯同時に点滅する。  消灯	故障ではありません。バッテリー内部の温度が過度に高いか、または過度に低くなっていて、充電待ちの状態です。バッテリー内部温度が充電に適した温度になると充電が開始されます。	47
バッテリーを充電器に接続したとき、充電器の充電ランプが点灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプの 1 灯目が速い点滅をする。 ＜ 0.2 秒間隔＞  点灯	故障ではありません。充電開始前の準備状態です。しばらくすると充電が開始されます。 例）長期間保管後の再利用時に充電すると、この状態になる可能性があります。	47

異音・異臭あるいは煙がでる

症状および確認内容	対処方法	ページ
パワーアシスト機構から普段と異なる音や異臭、煙がでる。	ご使用を中止してすぐにディスプレイ AD の電源を切り、販売店で点検をお受けください。	—
充電器から異音や異臭、煙がでる。	充電を中止してすぐに充電器の電源プラグを抜き、販売店で点検をお受けください。	41

充電器が熱い

症状および確認内容	対処方法	ページ
手で触れることができる程度。	充電中は多少の熱（約 40 ～ 70 ℃）を持ちますが、故障ではありません。	—
手で触れることができないほど熱い。	使用を中止してすぐに充電器の電源プラグを抜き、販売店で点検をお受けください。	—

バッテリー残量メーター／バッテリー残量ランプが表示しない

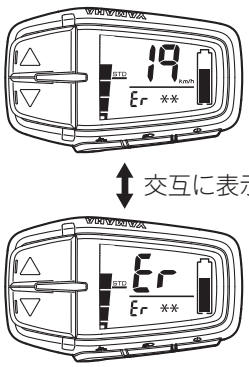
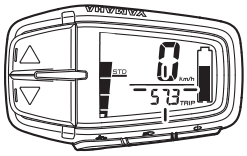
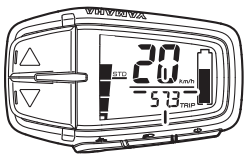
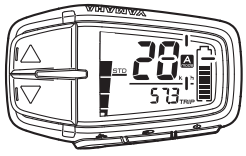
症状および確認内容	対処方法	ページ
アシストはするが、ディスプレイ AD のバッテリー残量メーターが消灯している。	バッテリーを取り外し、バッテリーの接続端子を乾いた布や綿棒などで清掃してください。清掃後、バッテリーを取り付けてください。	41
充電したが、ディスプレイ AD のバッテリー残量メーターが満充電表示しない。	温度が 15 ～ 25 ℃の屋内で、もう一度充電してください。	40
充電終了後、バッテリーのバッテリー残量表示ボタン “(☝)” を押してもバッテリー残量ランプが全部点灯しない。	充電の途中で、電源プラグまたはバッテリーが抜けたおそれがあります。 ⇒再度、接続しなおして充電してください。	41
バッテリーのバッテリー残量表示ボタン “(☝)” を押してもバッテリー残量ランプが表示しない。	故障ではありません。新品または長期保管されたバッテリーは、バッテリーのバッテリー残量表示ボタン “(☝)” を押しても表示しません。充電すると表示します。	—

充電プラグ取り外し後にバッテリー残量ランプが表示し続ける

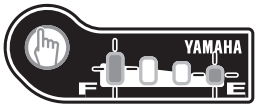
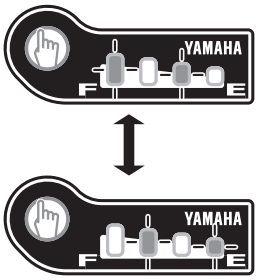
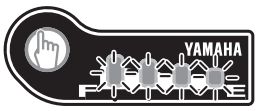
症状および確認内容	対処方法	ページ
充電プラグをバッテリーから外した後に、バッテリーのバッテリー残量ランプが表示し続ける。	充電器の充電プラグとバッテリーの充電コネクターが、汚れていたり、水にぬれている可能性があります。 充電器の充電プラグとバッテリーの充電コネクターの充電端子を綿棒などで清掃してください。 清掃後、再度充電してください。	41

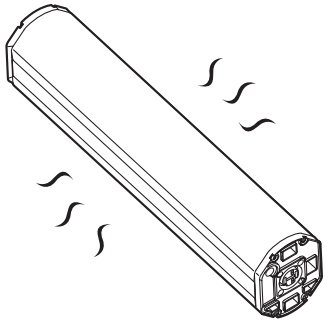
9章 もしもこんなときは

ディスプレイ AD に異常が表示・点滅される

症状および確認内容		対処方法	ページ
	スピードメーターと“Er” が交互に表示され、機能表示にエラー内容が表示される。	エラー信号またはパワーアシストシステム内部のトラブルが考えられます。 電源を入れなおしても同じ症状がでる場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。 (Er71 の場合) バッテリーパック内部のトラブルが考えられます。 バッテリーを外し、バッテリーのバッテリー残量ランプを確認してください。 (Er74 の場合) バッテリーパック内部のトラブルが考えられます。 電源を入れなおしても同じ症状がでる場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。	32
	走行中でもスピードメーターが表示されず機能表示部が点滅する。	スピードセンサーが正しく信号を検出できない状態が続くと点滅します。 しばらく走行を続けるか、電源を入れなおしてください。 同じ症状がでる場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。	32
	スピードメーターは表示されるが、機能表示部が点滅し、アシストしない。	故障ではありません。パワーアシストシステムの動作が正常か確認している状態です。ペダルを踏む力や走行状態によってこの状態になることがありますが、システムが正常であることが確認できると通常の状態に戻ります。	—
	オートマチックサポートモードが点滅する。	ドライブユニット内部に問題がある可能性があります。ディスプレイ AD の電源を切り、再度電源を入れてください。 同じ症状がでる場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。	—

バッテリー残量ランプが異常点滅する

症状および確認内容		対処方法	ページ
	バッテリーを充電器に接続したとき、またはバッテリー残量表示ボタン“☝”を押したとき、バッテリーのバッテリー残量ランプ 1 灯目と 4 灯目が同時に点滅する。	保護機能が作動して、バッテリーが使用できない状態になっています。バッテリーを交換してください。	—
	バッテリー残量表示ボタン“☝”を押したとき、バッテリーのバッテリー残量ランプ 1 灯目と 3 灯目、2 灯目と 4 灯目が交互に点灯と消灯を繰り返す。	バッテリーと自転車の接続端子の接触不良が考えられます。 バッテリーを異常状態から復帰させるため、バッテリーを一旦充電してください。 その後、バッテリーを自転車に取り付けてお使いください。	—
	バッテリーを充電器に接続したとき、バッテリーのバッテリー残量ランプ 1 灯目と 3 灯目、2 灯目と 4 灯目が交互に点灯と消灯を繰り返す。	バッテリーと充電器の接続端子の接触不良が考えられます。 バッテリーを異常状態から復帰させるため、バッテリーを一旦自転車に取り付けて、ディスプレイ AD の電源ボタンを押し、電源を入れてください。 その後、再度バッテリーを充電してください。	
	バッテリーを充電器に接続したとき、またはバッテリー残量表示ボタン“☝”を押したとき、バッテリー残量ランプが約 2 秒間、4 灯同時に速く点滅（約 0.1 秒間隔）する。	故障ではありません。長期使用のお知らせ機能が作動しています。引き続きお使いいただけますが、一充電あたりの走行距離が短く、アシスト力が弱く感じる場合はバッテリーの交換時期です。販売店でバッテリーを交換してください。	75



バッテリーの特性

- バッテリーの温度が上がると、アシスト力が低下することがありますが、システム保護制御が作動したためであり故障ではありません。バッテリーの温度が下がると回復します。

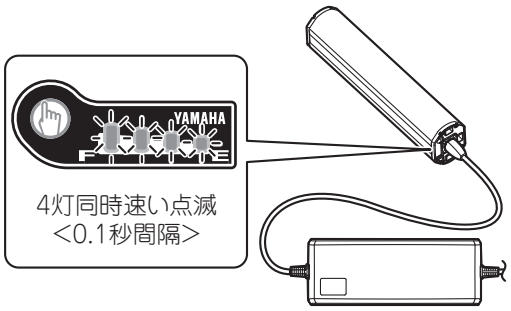


- バッテリーの温度が下がると、一充電あたりの走行距離が短くなったりアシスト力が低下することがありますが、リチウムイオンバッテリーの特性であり故障ではありません。温度が上がると回復します。また、バッテリーを温度 15 ～ 25 ℃の室内で保管してからご使用いただくと、症状を軽減することができます。
- 使用していなくても、わずかずつ放電します。ご使用いただく前に充電することで回復します。

バッテリーの寿命と交換

バッテリー容量は、充放電を繰り返し（700 ～ 900 サイクル[*1]）行うと、新品のときの約半分にまで低下します。また、長期間保管しているときも、わずかずつですがバッテリー容量は低下します。バッテリー容量が低下すると一充電あたりの走行距離が短くなり、アシスト力が弱く感じることがあります。充電をしても回復する兆しがなければバッテリーの交換時期です。できるだけ早めにバッテリーを交換してください。なお、この場合の交換は有料となります。

[*1] 充放電の「1 サイクル」とは、満充電にしたバッテリーをバッテリー残量が 0（ゼロ）になるまで使用し、再び満充電にする一連の工程をいいます。



長期使用お知らせ機能

長期間の使用によりバッテリー容量の低下が想定されるため、バッテリー交換時期の目安として長期使用をお知らせする機能を備えています。
お知らせ開始年数 *2 またはお知らせ開始総充電容量 *3 のいずれかいっぽうに達すると、約 2 秒間、バッテリー残量ランプが4灯同時に速く点滅(約0.1秒間隔)してお知らせします。
長期使用のお知らせを開始する条件は、以下のとおりです。

お知らせ開始年数 *2：
10 年
お知らせ開始総充電容量 *3：
9400Ah

*2 お知らせ開始年数とは、新品時、最初に充電したときからバッテリー内コンピューターが積算を始めて現在までの累積期間です。
*3 お知らせ開始総充電容量とは、新品時、最初に充電したときから現在までの充放電を繰り返した結果、充電された容量の総和です。

要　点

- 充電器に接続した場合は、長期使用のお知らせを約 2 秒間したのち、自動的に充電が始まります。
- 長期使用お知らせ機能が作動しても引き続きお使いいただけますが、一充電あたりの走行距離が短く、アシスト力が弱く感じる場合はバッテリーの交換時期です。バッテリーの交換については、販売店にご相談ください。



バッテリー交換時のお願い

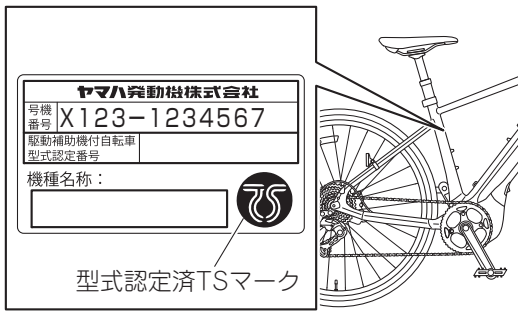
リチウムイオンバッテリーは、資源の有効な利用の促進に関する法律（資源有効利用促進法）で、使用後の回収および再資源化が義務付けられています。交換したバッテリーの回収は、ご購入の販売店にご依頼ください。

10 章 ごぞんじですか？

保証制度

お買い上げいただきましたYPJを構成する純正部品に、材質または製造上による不都合が生じた場合は、消耗部品を除き、保証書に示す条件に従いその部品の交換または補修により無料で修理を行います。詳しくは保証書をご覧ください。

型式認定済 TS マーク



型式認定済 TS マークは、道路交通法の規定に適合し、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にのみ表示することができ、安心してご使用いただけるあかしです。
型式認定済 TS マークは、フレームのシートパイプ部に貼付されています。なお、このマークには、交通傷害保険は付帯していません。

自転車保険加入の勧め

一部の地域や自治体では、自転車用対人・対物賠償保険の加入が義務付けられています。加入が義務化された地域で自転車を使うときは、必ず自転車保険にご加入ください。
その他の地域でも、万一の事故に備え、自転車保険のご加入をお勧めします。
詳しくは、お買い求めいただいた販売店または保険会社にご相談ください。

ヤマハ〈YPJ〉盗難保険について

ヤマハ〈YPJ〉はお客様のご負担なしで、全車盗難保険が付帯されています。ヤマハ〈YPJ〉の新車をお買い上げいただいたお客様を対象に、ご購入日より 3 年以内に盗難事故にあわれた場合、所定の自己負担額（「盗難保険の補償内容」を参照ください。）をご負担いただくことで、盗難された車両と同タイプの新車をお求めいただけます。詳細は下記のとおりです。

ご購入後7日以内に、ヤマハ発動機 <YPJ> 公式ページ『製品保証登録（兼盗難保険登録）はこちら』よりご登録ください。ご登録いただかない場合、盗難保険の補償が受けられない場合があります。
ホームページ： YPJ　保証登録　検索

ホームページでの登録には、お手持ちの保証書綴り「ヤマハ＜電動アシスト自転車 ＞ 点検・整備の記録」紙面右下に記された『X』（エックス）から始まるコードが必要です。（例；X1W-F819T-J0）
インターネット環境が無い場合は、製品保証登録票（兼盗難保険登録）ハガキでも登録できます。
※ご登録はホームページまたは専用ハガキのどちらかで結構です。
なお、はがきの料金受取人払い差出有効期限が過ぎている場合でも、切手を貼らずにそのまま投函してください。
なお、保険証書等は発行されませんので、［保証書］を大切に保管してください。盗難事故発生時に必要な書類となります。



1. 盗難保険の補償期間

お買い上げの日（保証書記載日）から 3 年後の応当日の 24 時まで（「ご継続」はございません）

2. 盗難保険の補償内容

① ヤマハ〈 YPJ 〉が盗難にあった場合
所定の自己負担額 ※1 をご負担いただくことで、同型の新車を提供します。ただし、部品、別売り付属品は対象外となります。（同型車が販売中止などの場合、同等品になる場合があります。なお、同型車のメーカー希望小売価格が上昇した場合、同等品が盗難された車両のメーカー希望小売価格より高い場合は、差額をご負担いただきます。
※1 ご購入日より、1 年目および 2 年目 … 本体価格※2 の 30%、3 年目 … 本体価格※2 の 50%

② ヤマハ〈 YPJ 〉 の盗難車が発見された際に、車両に損害が生じていた場合
修理費 ×87%－所定の自己負担額（ご購入日より、1 年目および 2 年目 … 本体価格※2 の 30%、3 年目 … 本体価格※2 の 50%）をお支払いします。
◆お客様には修理費 ×13%＋所定の自己負担額（ご購入日より、1 年目および 2 年目 … 本体価格※2 の 30%、3 年目 … 本体価格※2 の 50%）をご負担いただきます。
◆修理費がメーカー希望小売価格（本体）を上回る場合には、上記①と同様の取り扱いとなります。
※2 本体価格 … 車両にバッテリー・専用充電器を含んだ価格

3. 盗難事故にあわれた場合の対応（盗難保険手続き要領）

① すみやかに最寄りの警察署へ「盗難届」をご提出ください。
② お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。
※ 盗難発生の日から 30 日以内にご連絡いただかない場合、保険が適用されないことがありますのでご注意ください。
③ 盗難保険手続きに必要な以下の書類を添えて、お買い上げいただいた販売店までご提出ください。

【提出書類】

- 届出警察署発行の盗難証明書、または届出日・届出警察署・盗難日・受理番号を記載した書面
- 盗難車の保証書（写しでも可）
- 盗難保険手続き依頼書（販売店からご案内いたします）
- その他必要書類

※ 書類が到着後、調査期間として約 1 ヶ月かかることがありますのでご了承ください。

4. 盗難車の所有権

「盗難車が発見された場合、その所有権は保険会社に帰属すること」に同意いただいた上で、お手続きください。

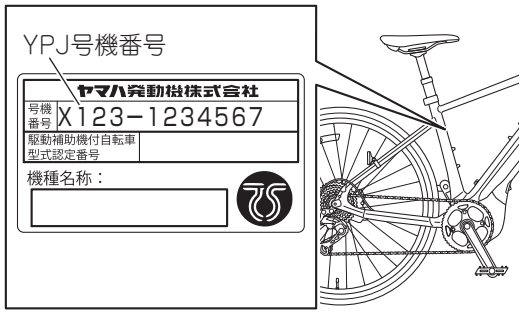
5. 盗難保険が適用されない主な場合

① 提出書類が全てそろわない場合。
② 部品等、本体の一部のみに生じた盗難による損害。
③ 車両所有者の故意、重大な過失、所有者の親族・使用人などによる盗取。
④ 警察が盗難としての届出を受理しない場合。
⑤ 地震、風水害、火災、暴動に起因して発生した盗難事故など。
⑥ チェーンロック（別売）等盗難抑止策を実施していない場合。

＊ なお、上記は保険の概要を記載したものであり、実際の保険金支払いに関しては盗難保険普通保険約款および特約条項に従います。
＊ 本商品は損害保険契約者保護機構の補償制度対象外であり、引受保険会社の破綻時の欠損状況により、保険金が減額、または保険金の支払いが一定期間凍結されることがあります。

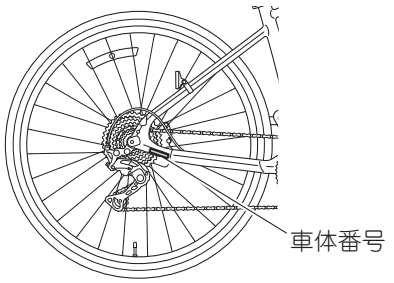
車両情報

おぼえのために裏表紙のスペースにご記入ください。



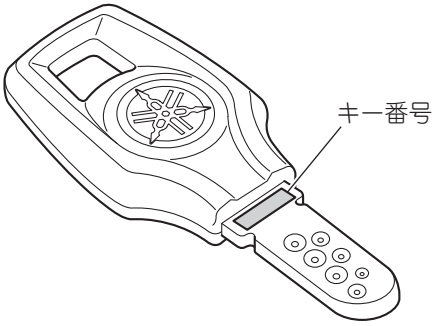
YPJ 号機番号

YPJ 号機番号は、車両を正確に特定するための情報をコード化したものです。アクセサリー品の購入など販売店にご相談の際には、モデル名と一緒に YPJ 号機番号も正確にお知らせください。
YPJ 号機番号は、フレームのシートパイプ部に貼付される製品ラベルに印字されています。



車体番号

車体番号は、防犯登録に使用します。
車体番号は、フレーム右側エンド部に打刻されています。



キー番号

キー番号は、スペアキーを作製（有料）するときに必要です。キーの作製については、お買い求めの販売店にご相談ください。
キー番号は、キー本体に打刻されています。

要　点

キーは 3 本付属していますので、2 本は予備として大切に保管してください。

防犯登録番号

防犯登録番号は防犯登録票から転記してください。

10 章 ごぞんじですか？



廃棄するときは

YPJ を廃棄するときは、お住まいになる地域のルールに従ってください。ご不明の場合は、お買い求めいただいた販売店にご相談ください。
また、リチウムイオンバッテリーは、資源有効利用促進法に基づきリサイクルが義務付けられています。バッテリーを廃棄するときは、お買い求めいただいた販売店へお持ちください。

11 章 製品仕様

		Wabash RT		
機種名		PC70WRL	PC70WRM	PC70WRS
全長		1,815mm	1,790mm	1,780mm
全幅		580mm		
軸間距離		1,090mm	1,068mm	1,057mm
サドル高		955 ～ 1,110mm	895 ～ 1,050mm	835 ～ 935mm
適応身長		177cm 以上	166cm 以上	154cm 以上
車両重量		21.3kg	21.2kg	21.1kg
タイヤ	サイズ	700 × 45C		
	空気圧（前）	250 ～ 410kPa （2.5 ～ 4.1kgf/cm^2, 2.5 ～ 4.1bar）		
	空気圧（後）	250 ～ 410kPa （2.5 ～ 4.1kgf/cm^2, 2.5 ～ 4.1bar）		
リム形状		HE		
バルブ型式		仏式		
変速機方式		外装変速　11 速（前 1 速 , 後 11 速）		
駆動方式		チェーン式		
制動装置	前	ディスクブレーキ		
	後	ディスクブレーキ		
充電あたりの走行できる距離 *1		101km		
補助速度範囲		24km/h 未満		
電動機	形式	ブラシレス DC 式		
	定格出力	240W		
補助力制御方式		踏力比例制御方式		
蓄電池	品番・種類	X1W-82110-00・リチウムイオン電池		
	定格電圧	36.0V		
	定格容量	13.4Ah		
	Typ. 容量	13.1Ah		
充電器	品番	X1W-8210C-00		
	電源	AC100V（50Hz-60Hz）		
	消費電力	190W		
	充電時間 *2	約 3 時間 30 分		

11 章 製品仕様

照明装置（前照灯）	バッテリーランプ

*1 標準パターンで走行したときの弊社データ
バッテリー新品、気温 15 ～ 25 ℃、車載重量 65kg（乗員および荷物を合計した重量）、平滑乾燥路面、無風、無点灯状態で、スタンダードモードで走行。
*2 お買い求めいただいた YPJ に装備されているバッテリーと充電器を使用して、バッテリーを残量ランプの 1 灯点滅まで使用したとき、満充電までのおおよその時間です。

12 章 お客様窓口のご案内

お買いあげいただきましたヤマハ電動アシスト自転車についてのお問合せは、お買いあげの販売店へお願いいたします。販売店が点検・修理をはじめサービスのご相談など、いつまでも親切にお受けいたします。
お気軽にご用命ください。

転居などでお買いあげいただきました販売店へご相談できない場合は、最寄りのヤマハ特約店及びサービスセンターへお問い合わせください。お近くのヤマハ電動アシスト自転車販売店をご紹介いたします。

ヤマハ特約店及びサービスセンター一覧

おことわり
区画整理、電話局の増設により住所、局番及び電話番号が変更される場合がありますのでご了承ください。

地区		特約店・サービスセンター	電話番号	郵便番号	住　所
北海道地区		ヤマハ発動機販売㈱サービスセンター東日本　札幌	011-222-6151	060-0031	札幌市中央区北一条東７－１０－３５
東北地区		ヤマハ発動機販売㈱サービスセンター東日本　仙台	022-772-7083	981-3112	仙台市泉区八乙女１－１－１０
	福島県	㈲松坂屋商会	0242-28-1525	965-0872	会津若松市東栄町３－４０
関東・甲信越地区		ヤマハ発動機販売㈱サービスセンター東日本	048-449-6232	335-0038	戸田市美女木北３丁目4番地の51
	茨城県	㈱第一自動車	0298-22-1968	300-0032	土浦市湖北１－４－１４
	栃木県	横田自動車販売㈱	0284-22-0511	326-0814	足利市通６－３２２３
	新潟県	㈱タカハシ　新潟店	025-229-2531	951-8013	新潟市中央区柳島町４－３６－２
		㈱タカハシ　長岡店	0258-46-6111	940-2121	長岡市喜多町１４１－３
中部・北陸地区		ヤマハ発動機販売㈱サービスセンター西日本　名古屋	052-939-1785	461-0023	名古屋市東区徳川町１０１３
	三重県	㈱ダイイチ	059-271-0819	510-0303	津市河芸町東千里８６２
近畿・中国・四国地区		ヤマハ発動機販売㈱サービスセンター西日本	06-6397-6171	532-0001	大阪市淀川区十八条２－４－４２
	山口県	㈱ササキコーポレーション	0836-21-8181	755-0027	宇部市港町１－１３－５
九州地区		ヤマハ発動機販売㈱サービスセンター西日本　福岡	092-411-3785	812-0897	福岡市博多区半道橋２－７－５２
	熊本県	熊本ヤマハ㈱	096-358-2000	861-4106	熊本市南区南高江３－２－１
	沖縄県	㈱沖縄ヤマハ	098-866-5353	900-0002	那覇市曙１－８－１０

カスタマー コミュニケーション センター

ヤマハ発動機株式会社　カスタマー コミュニケーション センター
〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500　**0120-090-819**
受付時間　月曜～金曜（祝日、弊社所定の休日等を除く）　9:00～12:00　13:00～17:00

13 章 索引

あ行

異音・異臭あるいは煙がでる 71
オートマチックアシストモードを
　装備しています 3
横断歩道をわたるときは
　一時停止を忘れずに！ 22
お客様窓口のご案内 83
お手入れのしかた 64
お乗りになる前の調整 23

か行

型式認定済 TS マーク 76
可動部のお手入れ 65
キー番号 79
機能表示 31
金属部のお手入れ 64
クワッドセンサーシステムを
　採用しています 3
降車のしかた 62
5 種類の「走行モード」を装備しています 2

さ行

サドルの位置調整について 24
シートポストの高さ調整のしかた 23
自己診断機能による異常表示 32
自転車の交通ルールを守りましょう 20
自転車保険加入の勧め 76
自動電源オフ機能を備えています 3
車体番号 79
車両情報 79
車輪の組み付けかた 39
車輪の取り外しかた 37
充電あたりの走行できる距離 58
充電器が熱い 71
充電器の取り扱い中　感電や火災を
　防ぐために 16
充電時間 46
充電中　感電や火災を防ぐために 18
充電できない 70
充電に適した環境 40
充電の確認 47
充電のしかた 41
充電プラグ取り外し後に
　バッテリー残量ランプが表示し続ける 71
重要ラベルについて 5
乗車前点検 48
初回点検（2 か月目点検） 63
初回点検（2 か月目点検）と定期点検 63
スピードのだしすぎや
　急ブレーキはやめましょう 22
スピードメーターの表示 30
スルーアクスル 37
前後ブレーキレバーの位置調整 62
前照灯 35
前照灯の「入／切」 32
走行距離が短い 70
走行距離が短くなる環境や使いかた 59
走行モードとオートマチック
　アシストモードの表示と切り替え 29

た行

正しい運転姿勢 23
長期使用お知らせ機能 75
長期保管（1 か月以上）するときは 67
長期保管（1 か月以上）と
　長期保管後の再使用 67
長期保管後に再使用するときは 68
定期点検 63
ディスプレイ AD ....27，28
ディスプレイ AD に異常が
　表示・点滅される 72
ディスプレイ AD のステー角度調整 33
ディスプレイ AD の向きの調整 32
電源ボタン 28
電動補助（パワーアシスト）システムにより
　最適なアシスト力が得られます 2
『止まれ』の標識があるところでは … 22
ドロッパーシートレバー 33

な行

荷物を積載するには 60

は行

廃棄するときは 80
発進のしかた 61
バッテリー・充電器の保管中
　事故を防ぐために 19
バッテリー交換時のお願い 75
バッテリー残量が無くなっても
　普通の自転車として走行可能です 3
バッテリー残量の確認 56
バッテリー残量メーターの表示 30

バッテリー残量メーターの表示と
　バッテリー残量の目安 56
バッテリー残量メーター／
　バッテリー残量ランプが表示しない 71
バッテリー残量ランプが異常点滅する 73
バッテリー残量ランプの表示と
　バッテリー残量の目安 57
バッテリーの寿命と交換 74
バッテリーの特性 74
バッテリーの取り扱い中　感電や火災を
　防ぐために 15
バッテリーや樹脂カバー類のお手入れ 65
バッテリーロック 33
バッテリーを自転車から取り外した状態で
　充電する場合 42
バッテリーを自転車に取り付けた状態で
　充電する場合 41
ハンドルの高さ調整のしかた 25
ハンドルの取り付け高さ調整 36
ハンドルブラケット 35
ハンドル周り 27
左側面 26
ブレーキのかけかた 61
ブレーキレバーの位置調整のしかた 25
フレームなど塗装部のお手入れ 65
ペダルが重い・アシストしない 69
変速レバー 34
防犯登録番号 79
保管するときは 67
保管に適した場所 66
保管のしかた 66
保証制度 76

ま行

右側面 26

や行

ヤマハ〈YPJ〉盗難保険について 77

わ行

YPJ 号機番号 79
YPJ ご使用中　けがを防ぐために 11
YPJ ご使用中　転倒や衝突事故を
　防ぐために 6
YPJ のバッテリー 40

バッテリーと充電器販売のご案内

バッテリー・充電器はお近くの販売店でご注文いただくか、ワイズギアオンラインショップでご注文ください。

※お使いの YPJ に適合するバッテリー・充電器をご確認いただくには、下記アドレスまたは QR コードにアクセスください。

https://www.ysgear.co.jp/Search/Pas-Battery/

お買い上げいただいたヤマハ＜ YPJ ＞の記録

おぼえのためにご記入ください。
（表示場所は『10 章ごぞんじですか？』の「車両情報」をご参照ください。）

Ｙ Ｐ Ｊ 号 機 番 号 ：

車　体　番　号　：

キ　ー　番　号　：

防 犯 登 録 番 号 ：

ヤマハ＜YPJ＞最新情報は　https://www.yamaha-motor.co.jp/pas/ypj/　ヤマハYPJ　検索

お買い上げいただいた販売店が点検・修理をはじめ、サービスのご相談などをお受けいたします。

お買い上げいただいた販売店

【補修用部品の保有期間について】
・生産終了時点から 8 年間保有します。
※ただし、仕様 / 外観 / 価格など変更になる場合があります。（例：バッテリ容量の変更など）

YAMAHA

©2022 ヤマハ発動機株式会社
Printed in China
ヤマハ発動機株式会社
〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500
2022.01